

# 本書の構成

---

## 本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書で使用している表記について説明しています。

---

## 第1章 リモートサービスボードの概要

この章では、リモートサービスボードの概要について説明しています。  
リモートサービスボードをお使いになる前に必ずお読みください。

---

## 第2章 準備

この章では、リモートサービスボードをお使いになる前の準備について説明しています。

---

## 第3章 起動と終了

この章では、Web インターフェースの起動と終了方法について説明しています。

---

## 第4章 各種監視情報の表示

この章では、Web インターフェースを使用して、サーバの監視情報を表示する方法について説明しています。



---

# 本書をお読みになる前に

## ■ 本書の表記

### ● 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

### ● キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

### ● 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作  
↓  
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

### ● コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
      ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ] :¥setup.exe

## ● Linux の操作について

お使いのバージョンにより、CD-ROM ドライブおよびフロッピーディスクドライブへのマウントコマンドが異なります。本書で「/mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/」、「mnt または media/floppy」と記載している操作については、お使いのバージョンにより、以下の操作に読み替えてください。

- RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(IPF) の場合  
/media/cdrecorder、/media/floppy
- RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64)/RHEL-AS4(EM64T)/ES4(EM64T) の場合  
/media/cdrom、/media/floppy

### 重要

- ▶ RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) の場合、マウント処理は以下の手順で行ってください。

```
# mkdir /media/cdrom
# mount /dev/cdrom /media/cdrom
または
# mkdir /media/floppy
# mount /dev/floppy /media/floppy
```

- RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86) の場合  
/mnt/cdrom、/mnt/floppy

## ● 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ● 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	Windows
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Server	
Microsoft® Windows® Server Network Operating System Version 4.0 Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Professional	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System 4.0	Windows NT Workstation 4.0	
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	Red Hat Linux RHEL5(x86)	Linux
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	RHEL5(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)	RHEL-AS4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)	RHEL-ES4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)	RHEL-AS4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)	RHEL-ES4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)	RHEL-AS3(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for Itanium)	RHEL-AS3(IPF)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86)	RHEL-ES3(x86)	
SUSE™ Linux® Enterprise Server 9 for x86	SUSE Linux SLES9(x86)	
Intel LANDesk® Server Manager	LDSM	
リモートサービスボード (PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 )	リモートサービスボード	

## ■ 参考情報

### ● 機種によるサポート OS について

本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。  
サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

### ● ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ  
(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>) に記載されています。

## ■ 商標

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

SUSE は、米国およびその他の国における Novell Inc. の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2007

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。



# 目 次

## 第 1 章 リモートサービスボードの概要

1.1 リモートサービスボードの機能 .....	10
1.1.1 リモートサービスボードの機能 .....	10
1.1.2 リモートサービスボードのファームウェア版数 .....	11
1.2 留意事項.....	12

## 第 2 章 準備

2.1 LANインターフェースの設定 .....	14
2.1.1 OS が Windows の場合 .....	14
2.1.2 OS が Linux の場合 .....	16
2.2 Management Server Application のインストールと設定 .....	17
2.2.1 MSA のインストール .....	17
2.2.2 MSA の設定 .....	18
2.2.3 MSA サービスの起動 .....	18
2.3 ディレクトリサービス機能の設定.....	19
2.3.1 パスワードの暗号化 .....	19
2.3.2 「DS Config」 ページの設定 .....	20
2.3.3 アカウントの設定 .....	20

## 第 3 章 起動と終了

3.1 Webインターフェースの起動 .....	22
3.2 Webインターフェースの終了 .....	25

## 第 4 章 各種監視情報の表示

4.1 [Manage] ページ .....	28
4.1.1 Advanced Video Redirection (AVR) 機能 .....	29
4.1.2 AVR Manual Configuration .....	33
4.1.3 View ASR Screenshot .....	34
4.1.4 Remote Storage 機能 .....	35
4.1.5 USB settings .....	47
4.2 [Sensors] ページ .....	49
4.2.1 Show All Sensors .....	49
4.2.2 History Configuration .....	50
4.2.3 Reload .....	50
4.3 [Card Config] ページ .....	51
4.3.1 Network Settings .....	52
4.3.2 SMTP/SNMP Settings .....	53
4.3.3 Paging Severity Setting .....	53

4.3.4 Reboot RSB S2 .....	54
4.3.5 Set Clock .....	54
<b>4.4 [Server Config] ページ .....</b>	<b>55</b>
<b>4.5 [Alarm Config] ページ .....</b>	<b>57</b>
<b>4.6 [User Config] ページ .....</b>	<b>59</b>
4.6.1 New User .....	60
4.6.2 Paging Settings .....	61
4.6.3 Autologon Settings .....	61
<b>4.7 [Web/SSL Config] ページ .....</b>	<b>63</b>
4.7.1 Server Certificate .....	64
4.7.2 Certificate Authority Certificate .....	66
<b>4.8 [DS Config] ページ .....</b>	<b>68</b>



## 第 1 章

# リモートサービスボードの概要

この章では、リモートサービスボード（PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105）の概要について説明しています。

1.1 リモートサービスボードの機能 .....	10
1.2 留意事項 .....	12

## 1.1 リモートサービスボードの機能

リモートサービスボードは、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源・USB ポートを備えたオプションの拡張カードです。リモートサービスボードを使用すると、サーバの状態に依存せずに、サーバを監視・操作することができます。

### 1.1.1 リモートサービスボードの機能

リモートサービスボードには、以下の機能があります。

- ・サーバの状態監視（OS ハング、電源異常、温度異常、電圧異常）
- ・サーバ異常時の管理者への通知
- ・サーバの遠隔操作（再起動、電源投入／切断）
- ・管理コンソールからのサーバのキーボード・マウス操作（Advanced Video Redirection 機能）
- ・管理コンソール上のデバイス・ブータブルファイルのサーバでのブート（Remote Storage 機能）

#### ● リモートサービスボードがサポートする通信インターフェース

- ・ LAN インターフェース
- ・ USB インターフェース

#### ● ServerView とリモートサービスボード（RSB）の連携

ServerViewConsole からリモートサービスボードの情報を確認することができます。

- ・ ServerView のサーバブラウザでは、画面下部の説明欄に「RSB (PG-RSB101)」または「RSB-S2,xxxxx (PG-RSB102 ～ 105)」として表示されます。
- ・ ServerView の監視対象サーバに RSB が搭載されている場合、「サーバのプロパティ」画面の [Remote Service Board] タブに RSB の名前、SNMP のコミュニティ名、IP が表示されます。  
また、同画面の [設定] をクリックすると、Web インターフェースを起動することができます。  
なお、この画面で IP の変更を行っても RSB へ反映は行われません。  
[接続テスト] をクリックすると接続テストが行えますが、テストトラップは PG-RSB101 のみ有効です。
- ・ ServerView のサーバ一覧では、RSB が搭載されたサーバの場合、そのサーバが管理不可状態になると Status Icon が「RSB モード」となり、RSB が持つ情報の範囲で ServerView の表示が行われます。管理可能状態に戻ると自動的に RSB モードは解除され、通常状態になります。

## 1.1.2 リモートサービスボードのファームウェア版数

リモートサービスボードのファームウェア版数を参照するには、以下の方法があります。

### ■ PG-RSB101 の場合

#### ● SERVICE PROCESSOR TOOL の使用

詳細は、「リモートサービスボード搭載キット」の「付録 A SERVICE PROCESSOR TOOL A.3 版数の参照」を参照してください。

#### ● Web インターフェースの使用

Web インターフェースを起動し、[Service Processor] 内の Firmware Version を参照します。

#### ● ServerView の使用

ServerView を起動し、バージョン管理タスクの Inventory View を実行します。リストの中の RSBA\_PRIMERGY（リモートサービスコントローラの場合は、CopA\_xxxx（xxxx は任意））のバージョンを参照します。

### ■ PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 の場合

#### ● Web インターフェースの使用

- Web インターフェースの起動画面で、「Version N" RSB\_LP\_A.X.X.XX.XX」を参照します。
- Web インターフェースにログオンし、[Card Config] タブの Software Revision: 「RSB\_LP\_A.X.X.XX.XX」を参照します。

## 1.2 留意事項

### ■ セキュリティについて

リモートサービスボードの扱う情報の中には、管理者名等の個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本カードを搭載した装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意くださいと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

### ■ その他の留意事項

- ・ [Sensors] ページで登録した各センサ項目は、Web インターフェースからログアウトすることにより、すべて初期化されます。
- ・ [Sensors] ページのファンセンサで「Red PSU FAN」が選択可能となっていますが、実際には存在しないファンです。
- ・ Windows サーバにリモートサービスボードを搭載した場合、サーバに接続されているキーボードが、英語 101/102 キーボード配列で動作する場合があります。本現象が発生した場合は、以下の手順で対処してください。
  1. デバイスマネージャを起動し、キーボード配下の [101/102 英語キーボードまたは Microsoft Natural PS/2] をダブルクリックします。
  2. [ドライバ] タブを選択し、[ドライバの更新] をクリックします。  
ドライバの更新ウィザードが起動します。
  3. 「このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する」にチェックを付け、[次へ] をクリックします。
  4. 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付け、[日本語キーボード (106/109 キー)] を選択して [次へ] をクリックします。
  5. ウィザードに従ってドライバを更新後、コンピュータを再起動します。

#### POINT

- ▶ 本現象に関する詳細な情報については、以下を参照してください。
  - ・ マイクロソフト サポート技術情報 - 416037  
「USB キーボードデバイス接続後に英語 101 キーボード配列になる」
- ・ RSB を搭載したサーバの機種により、履歴情報の表示（Web インターフェース - Sensor タグ - History Configuration）が正しく動作しない場合があります。  
例：履歴情報表示中、次のエラーが発生する。  
Error gettings values Status Bar!

## 第 2 章 準備

この章では、リモートサービスボードを使用する前の準備について説明しています。

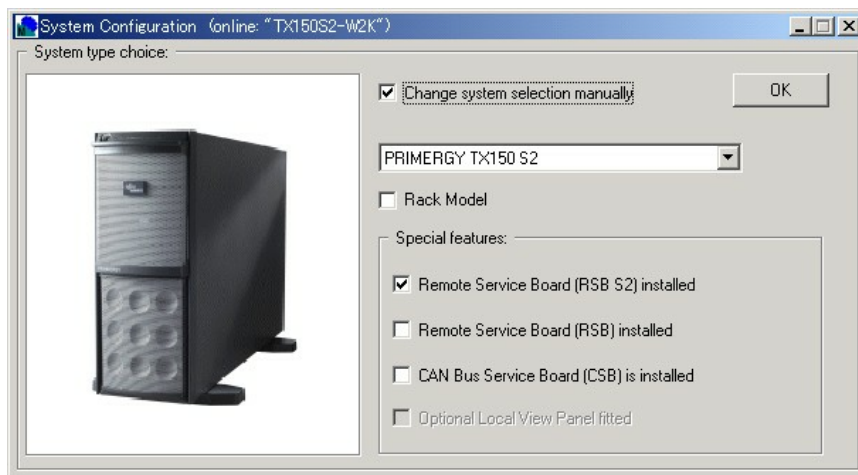
2.1 LAN インターフェースの設定 .....	14
2.2 Management Server Application のインストールと設定 .	17
2.3 ディレクトリサービス機能の設定 .....	19

## 2.1 LAN インターフェースの設定

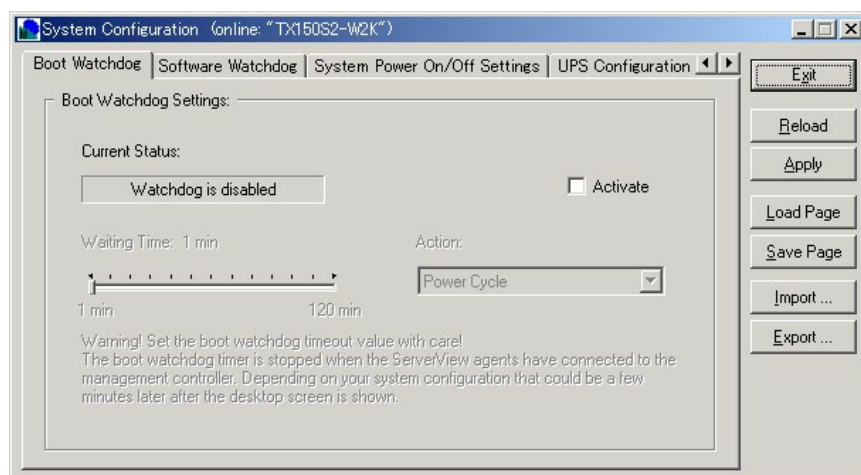
リモートサービスボードを使用する前に、LAN インターフェースの設定を行ってください。

### 2.1.1 OS が Windows の場合

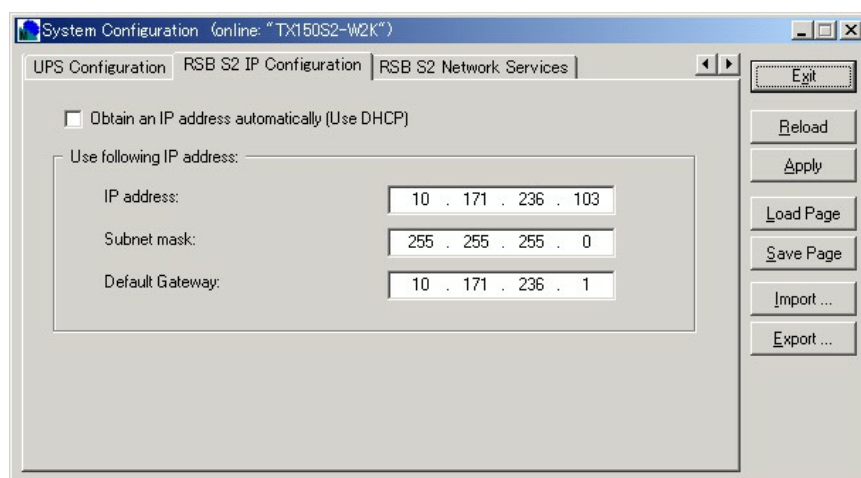
- 1 ローカルの Administrators グループに所属しているローカルユーザアカウントで、サーバにログインします。  
なお、Domain Admins グループでは、設定できません。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。  
System Configuration ウィンドウが表示されます。サーバの機種名が正しいことを確認してください。



- 4** 「Change system selection manually」、「Remote Service Board (RSB S2) installed」のチェックボックスにチェックを付け、[OK] をクリックします。以下の画面が表示されます。



- 5** [▶] をクリックし、[RSB S2 IP Configuration] タブを選択します。



- 6** 「Obtain an IP address automatically{Use DHCP}」チェックボックスのチェックを外し、リモートサービスボードの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルト・ゲートウェイを入力します。
- 7** [Apply] をクリックします。
- 8** [Exit] をクリックします。

## 2.1.2 OS が Linux の場合

**1** スーパーユーザでログインします。

**2** PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行します。

特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます（コマンドの実行は不要です）。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

**3** 以下のコマンドを実行し、CD-ROM 内のユーティリティを起動します。

・ Red Hat Linux の場合

```
# /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/  
LinuxSVAgent/Tools/RSB_UTY/rsbs2_utyRedHat
```

・ SUSE Linux の場合

```
# /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/Tools/RSB_UTY/  
rsbs2_utySuSE
```

**4** 「LAN Interface」を選択します。

現在設定されている以下の情報が表示されます。

- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ
- ・ DHCP （ Enabled / Disabled ）

**5** 「e」を選択し、項目の編集を行います。

**6** メッセージに従って、各項目を設定します。

項目を入力後、【Enter】キーを押すと、次の項目の編集に移ります。各項目の入力で【Enter】キーのみを押した場合、その項目の設定は変更されません。全項目の設定が完了すると、「LAN Interface」画面に戻ります。

**7** 「s」を選択し、設定を保存します。

**8** 「x」を選択し、「LAN Interface」を終了します。

**9** 「x」を選択し、ユーティリティを終了します。

**10** CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```



## 2.2 Management Server Application のインストールと設定

Management Server Application（以下、MSA と表記します）では、リモートサービスボードに iSCSI 接続を行う Remote Storage 機能と、ディレクトリサービス機能によるログインユーザ管理を行います。

### ■ Remote Storage 機能

Remote Storage 機能は、リモートサービスボードが搭載されているサーバに、ネットワーク上の他の端末のドライブなどを接続する機能です。MSA では、リモートサービスボードに対して iSCSI 接続による Remote Storage 機能を提供します。接続に成功すると、`¥management_server¥iscsi_root` 以下に格納されたディスクイメージファイルがサーバ OS 上にディスクとして認識されます。iSCSI 接続の接続方法については、「■ iSCSI connection 接続」(→ P.40) を参照してください。

### ■ ディレクトリサービス機能

ディレクトリサービス機能は、リモートサービスボードにアクセスするユーザの管理を行います。ユーザがリモートサービスボードにログインした際に、リモートサービスボードは内部のデータベースに該当するユーザが含まれているかのチェックを行います。

### POINT

#### MSA を使用するために必要な環境

- ▶ MSA を使用するには、以下の環境が必要です。
  - ・ JDK 1.3.1\_01 以上がインストールされていること
  - ・ ディスクイメージの容量を除いて、30MB 以上のインストール領域が存在すること

### 2.2.1 MSA のインストール

以下の操作を行い、MSA をインストールします。

- 1** 管理者または管理者権限を持つユーザ名でログインします。
- 2** 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3** PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のフォルダのいずれかをフォルダごとサーバのインストール先フォルダにコピーします。
  - [CD-ROM ドライブ] :`¥Svmanage¥WinSVConsole¥Tools¥management_server`
  - または
  - [CD-ROM ドライブ] :`¥Svmanage¥LinuxSVConsole¥Tools¥management_server`

## 2.2.2 MSA の設定

---

MSA を使用するには、"msa.conf" ファイルをテキストエディタなどで開いて編集してください。"msa.conf" ファイルは「management\_server」フォルダ内の以下に格納されています。

management\_server¥conf¥msa.conf

それぞれの設定値については "msa.conf" ファイル内に記載のコメントを参照してください。

### 重要

- ▶ 編集中はタブキーを使用しないでください。
- ▶ 通常、「%%test%%」のように %% で括られた箇所以外は変更する必要はありません。
- ▶ ディレクトリサービス機能を使用しない場合は # AccessControlService 以下の行をすべてコメントアウトしてください。
- ▶ ディレクトリサービス機能では「ActiveDirectoryService」のみサポートしています。「iPLANET」は未サポートです。

## 2.2.3 MSA サービスの起動

---

MSA の起動方法には、以下の 2 つの方法があります。

### ● "msa.jar" ファイルを実行して起動する

[インストールフォルダ] ¥management\_server¥msa.jar を実行します。

この場合、MSA はバックグラウンド・サービスとして起動するため、画面には何も表示されません。

### ● "start\_msa.bat" ファイルを実行して起動する

[インストールフォルダ] ¥management\_server¥start\_msa.bat を実行します。

Windows OS の場合、コマンドプロンプト画面が開き、MSA の起動状態やエラーが表示されます。コマンドプロンプト画面を閉じるとサービスも停止します。

## 2.3 ディレクトリサービス機能の設定

ディレクトリサービス機能を使用するために必要な設定について説明します。

### 2.3.1 パスワードの暗号化

"msa.conf" ファイルの「GU\_SECURITY\_CREDENTIALS =」以降に記述された「ActiveDirectoryService」ログイン用のパスワードを暗号化する必要があります。

- 1 "management\_server" フォルダ内の "pwd.bat" ファイルを実行します。  
以下のメッセージが表示されます。

```
*****  
Please enter Access Control Server configuration file name:
```

- 2 "msa.conf" ファイルの位置を入力し【Enter】キーを押します。
- 3 ユーザ名を入力し、【Enter】キーを押します。
- 4 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。  
以下のメッセージが表示されます。

```
*****  
Please enter Access Control Server configuration file name: ./conf/msa.conf  
Please enter general user security principal: testserver/testname  
Please enter general user security credentials: testpass  
*****  
Input information summary:  
  
Access Control Server configuration file name: ./conf/msa.conf  
General User security principal: testserver/testname  
General User security credentials: testpass  
*****  
Confirm? [y/n/exit]:
```

- 5 【y】キーを入力し、【Enter】キーを押します。

## 2.3.2 「DS Config」 ページの設定

リモートサービスボードの Web インターフェースを起動し、[DS Config] タブをクリックして設定します。

Directory Service (DS) Authentication Properties			
<input checked="" type="checkbox"/> Enable Directory Service connectivity			
Access Control Server 1:	<input type="text" value="0.0.0.0:0"/>		
Access Control Server 2:	<input type="text" value="0.0.0.0:0"/>		
DS Group Name:	<input type="text" value="RMCALL"/>		

History of User Login's since last card reset		
User ID	Login Time	Login Name
0x3	2005/09/18 17:28:05	admin
0x3	2005/09/18 17:30:34	admin
0x3	2005/09/18 17:32:53	admin
0x3	2005/09/20 11:40:58	admin
FAILED	2005/09/27 14:22:12	admin
FAILED	2005/09/27 14:22:17	admin
FAILED	2005/09/27 14:24:35	admin
0x3	2005/09/27 14:24:47	admin
0x3	2005/09/27 14:26:57	admin
0x3	2005/09/27 14:28:33	admin
0x3	2005/09/27 14:29:25	admin
0x3	2005/09/28 19:55:30	admin
0x3	2005/09/28 19:56:55	admin

Apply Cancel Help Logout

RSB S2    Server: off    Connected users: 1 | User ID: admin    2005/10/24 18:04

表 : DS Config ページの設定項目

項目	説明
Access Control Servers 1 Access Control Servers 2	MSA が稼動しているサーバを指定します。「1」にはプライマリ、「2」にはセカンダリの MSA サーバを指定してください。
DS Group Name	Active Directory 上に設定されているリモートサービスボードログインアカウントの「説明 (Description)」の一部分を設定します。 例えば、「testdis:administrator」と設定している場合は、「testdis」と入力します。この値は、リモートサービスボード認証のためのキーとなりますので、必ず正確に一致するように注意してください。

## 2.3.3 アカウントの設定

ドメインコントローラに、最低 2 つのユーザアカウントを設定してください。各アカウントには「ユーザ名」、「パスワード」の他に、「説明」の設定が必須です。

各アカウントと、設定する「説明」は以下のとおりです。

- MSA がドメインコントローラにログインするためのアカウント  
「説明」には「RMCALL:administrator」が自動的に設定されます。変更することはできません。
- RSB を使用するユーザーをドメインコントローラが認証するためのアカウント  
Web インターフェースの「DS Config」ページ「DS Group Name」欄に Active Directory 上に設定されているリモートサービスボードログインアカウントの「説明 (Description)」の一部分を設定します。

## 第 3 章 起動と終了

# 3

この章では、Web インターフェースの起動と終了方法について説明しています。

3.1 Web インターフェースの起動 .....	22
3.2 Web インターフェースの終了 .....	25

## 3.1 Web インターフェースの起動

Web インターフェースの起動方法について説明します。

リモートサービスボードは、Web インターフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

Web インターフェースを使用する場合はブラウザに Java™ 2 Runtime Environment が必須となります。

推奨する環境は、以下のとおりです。

- OS が Windows の場合
  - Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降）
  - Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2\_08 以降
- または
- Netscape Navigator / Communicator V4.78 以降（推奨 6.2 以降）
- Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2\_08 以降
- OS が RHEL-AS3(x86) / ES3(x86) の場合
  - Mozilla V1.3 以降
  - Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2\_08 以降
- OS が RHEL-AS4(x86) / ES4(x86) の場合
  - Firefox 1.0 以降
  - Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2\_08 以降

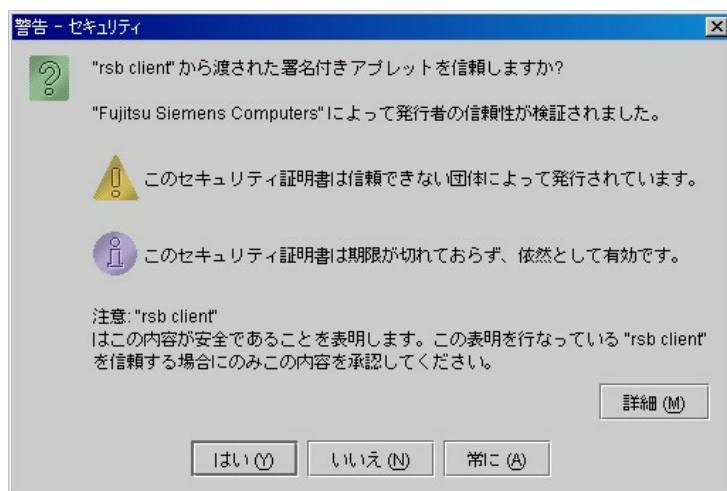
### POINT

- ▶ Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2\_08 以降は、Sun Microsystems のホームページから入手できます。

**1** Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

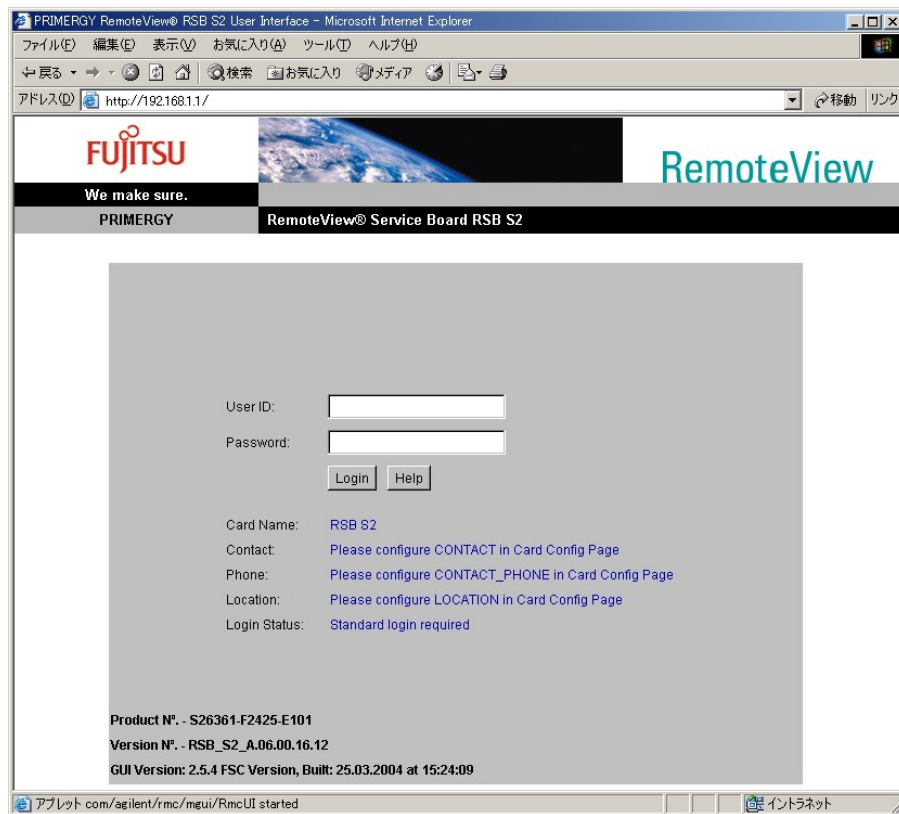
- `http://<IP アドレス>:<ポート番号（デフォルト：80）>`（http が有効の場合）
- `https://<IP アドレス>:<ポート番号（デフォルト：443）>`（https が有効の場合）

以下のような警告画面が表示されます。



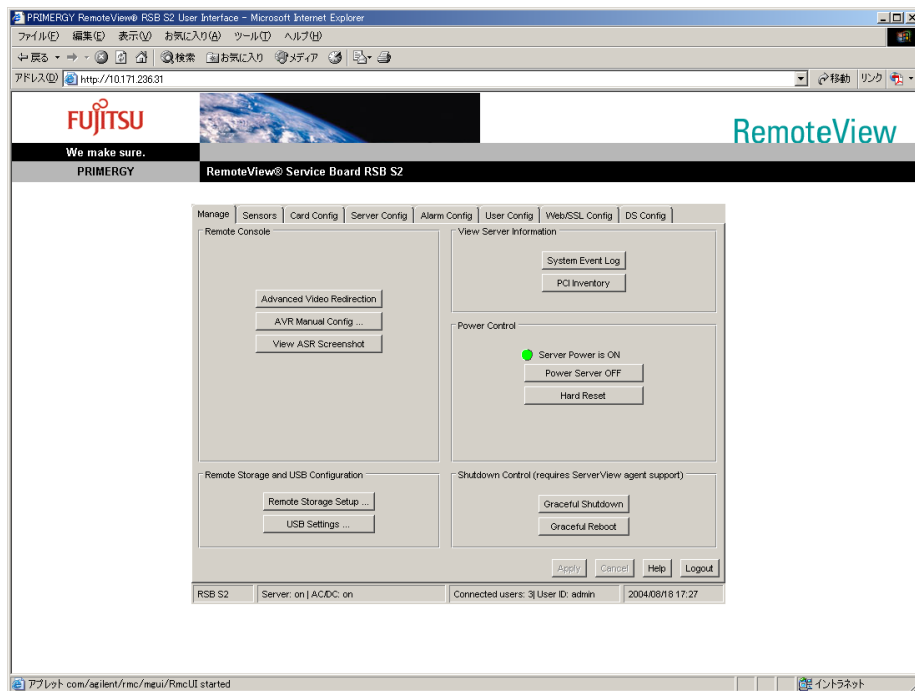
## 2 [はい] をクリックします。

ログイン画面が表示されます。



### 3 ユーザ名とパスワードを入力します。

認証に成功すると、以下のような画面が表示されます。



Web インターフェースでは各機能ごとにタブ表示されています。それぞれのタブをクリックすると各ページに移行できます。



## 3.2 Web インターフェースの終了

Web インターフェースの終了方法について説明します。

リモートサービスボードの Web インターフェースを終了する場合は、メニューの「Logout」からログアウトしてください。また、ログアウトせずに Web ブラウザを終了させると、自動的にログアウトされます。



## 第 4 章

# 4

### 各種監視情報の表示

この章では、Web インターフェースを使用して、サーバの監視情報を表示する方法について説明しています。

4.1	[Manage] ページ .....	28
4.2	[Sensors] ページ .....	49
4.3	[Card Config] ページ .....	51
4.4	[Server Config] ページ .....	55
4.5	[Alarm Config] ページ .....	57
4.6	[User Config] ページ .....	59
4.7	[Web/SSL Config] ページ .....	63
4.8	[DS Config] ページ .....	68

# 4.1 [Manage] ページ

[Manage] ページでは、画像の表示方法を設定したり、電源の操作などが行えます。

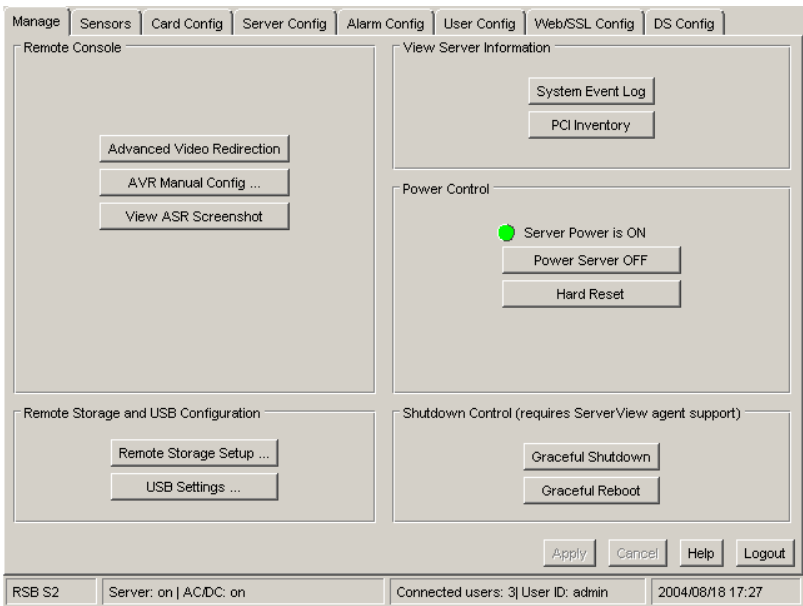


表 : Manage ページの機能

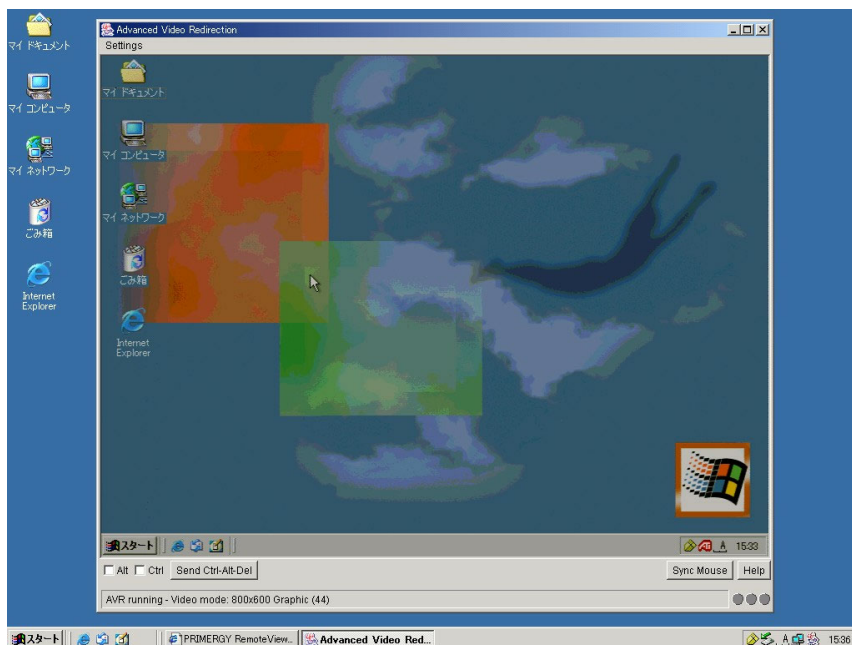
項目	説明
Remote Console	サーバ画面上に表示される画像をコンソールの AVR ウィンドウ上に表示し、サーバ上での操作をコンソールで行う機能です。
[Advanced Video Redirection]	AVR ウィンドウを開きサーバ画面のリダイレクションを開始します。 → 「4.1.1 Advanced Video Redirection (AVR) 機能」 (P.29)
[AVR Manual Config ...]	AVR の設定を行います。 → 「4.1.2 AVR Manual Configuration」 (P.33)
[View ASR Screenshot]	Watchdog 検出時に取得されたサーバ画面のスクリーンショットを表示します。 → 「4.1.3 View ASR Screenshot」 (P.34)
Remote Storage and USB Configuration	ネットワーク上の他のドライブをリモートサービスボードからロードするための設定です。
Remote Storage Setup	Remote Storage の設定を行います。 → 「4.1.4 Remote Storage 機能」 (P.35)
USB Settings	USB の設定を行います。 → 「4.1.5 USB settings」 (P.47)
View Server Information	サーバ本体の情報を表示します。
System Event Log	サーバの SEL を表示します。
PCI Inventory	PCI デバイスの情報を表示します。 本機能はリモートサービスボード (PG-RSB102) のみ有効です。

表 : Manage ページの機能

項目	説明
Power Control	サーバ本体の電源操作を行います。
Power Server On/Off	サーバ電源が On の場合はサーバの状態に関係なく Power Off を実行します。サーバ電源が Off の場合は Power On を実行します。  <div> <div>POINT</div> <div> <p>▶ OS ハングの場合、PG-RSB104 / PG-RSB105 では Gracefull Shutdown 処理となる場合があります。その場合、Hard Reset を使用してください。</p> </div> </div>
Hard Reset	サーバの状態に関係なく Reset を実行します。
Shutdown Control	サーバのシャットダウン・リブートを行います。 この操作を行うためにはサーバの OS 上に ServerView エージェントがインストールされている必要があります。
Gracefull Shutdown	サーバの OS をシャットダウンします。
Gracefull Reboot	サーバの OS をリブートします。

### 4.1.1 Advanced Video Redirection (AVR) 機能

Advanced Video Redirection (AVR) では、サーバ画面に表示される画像をコンソールの AVR ウィンドウ上に表示し、サーバ上での操作をコンソールで行う機能です。  
 [Advanced Video Redirection] をクリックすると、以下のような AVR ウィンドウが開きます。  
 サーバ画面で表示される画面がそのまま AVR ウィンドウ上で表示されます。AVR ウィンドウ上でのキー操作・マウス操作は一部の例外を除いてサーバ側に送られます。



## POINT

- ▶ AVR ウィンドウは、サーバおよびコンソールの描画能力、OS 画面解像度、画面色などの複数の要因によって性能に差が生じます。用途・目的に合わせた設定をお選びください。基本的にコンソールのグラフィックス性能が高いほど、AVR は効率的に機能します。
- ▶ [Send Ctrl-Alt-Del] ボタン  
[Send Ctrl-Alt-Del] をクリックすると、サーバ側で【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーを押した状態になります。
- ▶ [Ctrl] / [Alt] / [Shift] ボタン  
ボタンが押された回数により、ボタンの色が変わります。各色の入力状態は以下のようになります。

表：表示された色ごとの入力状態

色	入力状態
グレー	「Sticky Key Mode」無効時の標準状態です。
オレンジ	「Sticky Key Mode」有効時の標準状態です。
黄緑	キーが押された状態です。他のキーとの組み合わせにより 1 回のアクションで解除されます。
緑	キーが常に押されている状態です。他のキーとの組み合わせによるアクションが何回でも実行可能です。「Sticky Key Mode」有効時のみ表示されます。

- ▶ [Send Key Sequence] ボタン  
ボタン横にあるコンボボックス内のキーアクションを選択し、[Send Key Sequence] ボタンを押すと、サーバ側でも同様のキーを押した状態になります。キーアクションには以下の種類があります。
  - ・ Ctrl-Alt-Del
  - ・ Alt-SysRq
  - ・ Alt-Tab
  - ・ Alt-F4
  - ・ Ctrl-Alt-F4
  - ・ Ctrl-Tab
  - ・ Ctrl-Esc
  - ・ Ctrl-Alt-Backspace
  - ・ Print Screen
 Send Key Sequence に表示されるキーの変更、削除、または新たなキーの登録はできません。
- ▶ [Sync Mouse] ボタン  
マウス位置の初期化を行います。コンソールーサーバ間でマウスカーソルに「ずれ」が生じた場合に使用してください。

## 重要

- ▶ SCSI アレイコントローラカード (MegaRAID) のコンフィグレーションユーティリティ「WebBIOS」画面では、独自のマウスドライバを使用しているため、RSBS2/S2LP の Web Interface による Advanced Video Redirection 機能において、正常にマウス操作が行えません。
- ▶ AVR を使用する場合、サーバの BIOS 設定で、「USB Legacy Support」項目を「Enable」に設定してください。「USB Legacy Support」が「Disable」に設定されている場合、特定のサーバ状態で AVR のマウス／キーボードが有効にならない場合があります。サーバの BIOS 設定については、サーバに添付のマニュアルを参照してください。

## ■「Settings」メニュー

ウィンドウ上部「Settings」メニューをクリックすると、以下のサブメニューが表示され、AVR ウィンドウでの画像やマウス・キーボードの設定を行えます。

表：[Settings] メニューの機能

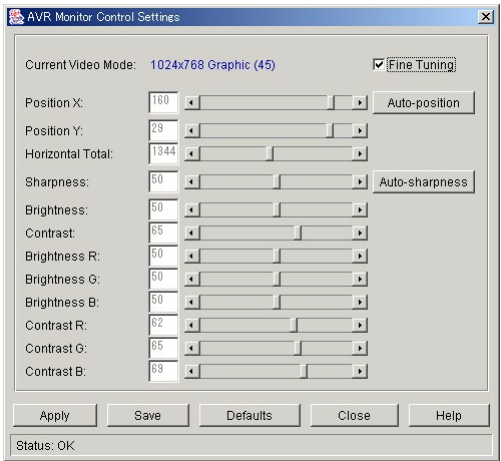
項目	説明
Display	画面表示に関係する設定項目です。
Monitor Controls	「● AVR Monitor Controls Setting ウィンドウ」(→ P.32)を開きます。AVR の画面表示について設定します。
Video Capture Parameters	「● AVR Video Capture Setting ウィンドウ」(→ P.32)を開きます。AVR のキャプチャ機能の設定を行います。
Languages	コンソール側／サーバ側の OS 言語を設定します。 日本語 OS はありません。英語 OS を選択してください。
Keyboard	キーボードに関する設定項目です。
Typing Mode	コンソール側キーボードの入力設定をサーバ側に反映するかどうかを設定します。
Show Virtual Keyboard	バーチャルキーボードを表示します。キーボードのタイプは、「Languages」で設定したタイプとなります。
Sticky Key Mode	特殊キー操作 ([Ctrl][Alt][Shift] など) をサーバ側に反映するかどうかを設定します。
Secure Keyboard	セキュアモード (「Typing Mode」「Sticky Key Mode」を無効化) にします。
Mouse	マウスに関する設定項目です。
Show Client Cursor	AVR ウィンドウ上でコンソール側のマウスカーソルの表示の有効 / 無効を設定します。
View-Only mode	有効の場合はマウス・キーボードの操作はブロックされます。

### 重要

- ▶ リモートサービスボード (PG-RSB102) において、「Settings」メニューの「View-Only mode」を有効にした場合は、AVR ウィンドウを終了するまで「View-Only mode」は無効にできません。無効にする場合は、いったん AVR ウィンドウを終了して、再度 AVR ウィンドウを開いてください。
- ▶ Advanced Video Redirection では、コンソール側のキーボードおよびマウスは、サーバ側にそれぞれ USB キーボード (HID キーボード)、USB マウス (HID マウス) として接続されます。

● AVR Monitor Controls Setting ウィンドウ

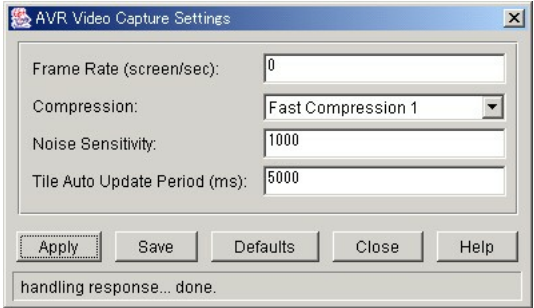
AVR の画面表示について設定します。スクロールバーを操作して各値を設定してください。



[Apply] をクリックすると設定が有効になります。設定値の変更で画面が乱れる場合がありますが、その場合は [Defaults] をクリックして設定を初期状態に戻してください。

● AVR Video Capture Setting ウィンドウ

AVR のキャプチャ機能について設定します。AVR 機能のフレームレート、ノイズ感度、解像度切り替えの速さが設定できます。



「Compression」の設定は以下の表を参照してください。

表 : 「Compression」の設定

項目	パフォーマンス	必要とする帯域幅	画像品質
No Compression	遅	最高	最高
Fast Compression 1/2	最速	中	最低
Good Quality Compression	高速	最低	低
Best Quality Compression 1/2	中	低	中

[Apply] をクリックすると設定が有効になります。設定値の変更で画面が乱れたり、何も表示されなくなる場合がありますが、その場合は [Defaults] をクリックして設定を初期状態に戻してください。



## 4.1.2 AVR Manual Configuration

ここでは AVR の基本的な設定を行います。

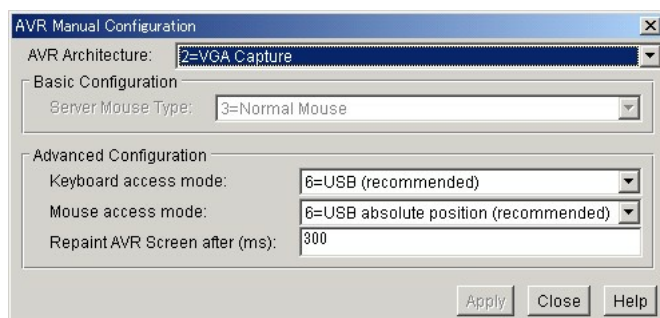


表 : AVR の基本設定

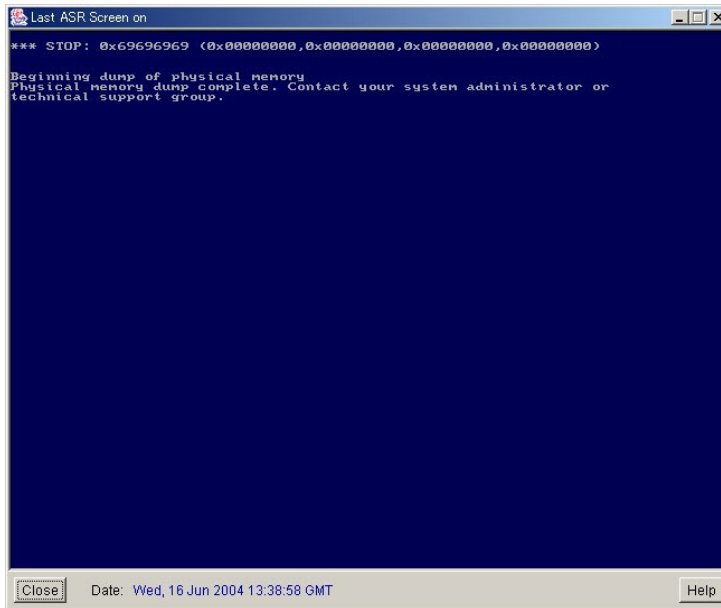
項目	説明
AVR Architecture	[2=VGA Capture] を選択してください。
Keyboard access mode	[6=USB (recommended)] を選択してください。
Mouse access mode	サーバ上の OS によって設定値が異なります。 Windows 系 OS の場合は [6=USB absolute position (recommended)]、 Linux 系 OS の場合は [7=USB relative position] に設定してください。
Repaint AVR Screen after (ms)	AVR ウィンドウの更新間隔を設定します。通常、デフォルト値 (300) のままで問題ありません。

### POINT

- ▶ 「Mouse access mode」の設定を、「7=USB relative position」に設定した場合、メニューが追加されて個別にマウスアクセラレーションを設定できるようになります。その場合、通常は「2」を選択してください。この値はサーバの環境によって異なります。本設定値がサーバ上のマウスアクセラレーションの設定値と一致していない場合、AVR 画面上においてマウスカーソルの不一致が起こる場合があります。

### 4.1.3 View ASR Screenshot

本体サーバの Watchdog が検出されると、リモートサービスボードはその時点でのサーバ画面のスクリーンショットを自動的に取得します。[View ASR Screenshot] をクリックすると、最も新しいスクリーンショットが表示されます。



#### POINT

- ▶ [View ASR Screenshot] はリアルタイムのサーバ画面を表示するものではありません。キーボード・マウス操作などは行えません。
  - ▶ [View ASR Screenshot] の取得されるタイミングは Watchdog 検出時です。ServerView の Watchdog 設定にて Software または Boot の Watchdog を有効にする必要があります。
  - ▶ [View ASR Screenshot] で取得された画面は、次の起動が正常だった場合には削除されます。
  - ▶ AVR では、同一サーバに対して複数のコンソールでの使用はできません。コンソール A で AVR を実行しているリモートサービスボードに対して、コンソール B から AVR を実行すると、コンソール A の AVR は強制的に終了します。
  - ▶ AVR は必ず対象サーバと異なる管理端末上で実行してください。サーバ上のブラウザでサーバ自身の AVR を行くと、画面表示が止まらなくなります。
  - ▶ AVR では 101 英語キーボードのみをサポートしています。コンソールが日本語版 Windows などの場合、入力ロケールの違いから一部のキーが通常と異なる出力をする場合があります。RSB 接続サーバ側で以下の設定を行って、AVR 使用時に 101 英語キーボードの入力ロケールを使用してください。
    - ・ Windows 2000 Server の場合
      1. コントロールパネルを起動し、「キーボード」アイコンをダブルクリックします。
      2. [入力ロケール] タブをクリックし、[追加] をクリックします。
      3. 「英語 (US)」を選択し、[OK] をクリックします。
      4. 「キーボードのプロパティ」で [OK] をクリックします。
- 【Alt】 + 【Shift】 キーを押すと、タスクバー上の表示が「EN」となり、英語の入力ロケールに切り替わります。

- ・ Windows Server 2003、Windows XP の場合
  1. IME ツールバーを右クリックし、「設定」をクリックします。
  2. [追加] をクリックします。
  3. 「英語 (US)」を選択し、[OK] をクリックします。
  4. 「設定」画面で [OK] をクリックします。  
 【Alt】 + 【Shift】 キーを押すと、タスクバー上の表示が「EN」となり、英語の入力ローケルに切り替わります。
- ・ Linux (X-Window を使用) の場合
  1. [スタート] (赤い帽子) - [システム設定] - [キーボード] の順に選択します。
  2. 「英語 (US. インターナショナル)」を選択してください。
- ・ Linux (X-Window を使用しない) の場合 : setup コマンドを使用する方法
  1. setup コマンドで、セットアップを起動します。
  2. Keyboard Configuration を選択します。
  3. 「jp106」が選択されているので「us」に変更し、[OK] をクリックしてください。
  4. セットアップを終了します。
- ・ Linux (X-Window を使用しない) の場合 : setup コマンドを使用しない方法
  1. 以下のコマンドを実行します。

```
# loadkeys us
```

なお、日本語キー配列に戻すには、以下のコマンドを実行してください。

```
# loadkeys jp106
```

- ▶ OS 動作時以外 (WebBIOS など) でマウスを使用する場合は「Mouse access mode」の設定を、[7=USB relative position] または [6=USB absolute position (recommended)] に切り替え、動作する方で使用してください。  
 「Mouse access mode」の設定を切り替えた場合は Advanced Video Redirection (AVR) を再起動してください。

## 4.1.4 Remote Storage 機能

Remote Storage 機能はリモートサービスボードが搭載されているサーバに、ネットワーク上の他の端末のドライブなどを接続する機能です。Remote Storage には以下の 2 つの接続形態があります。

- ・ Web インターフェースを実行しているコンソール上のドライブなどに接続する  
 → 「**Local connection 接続**」(P.36)
- ・ 「iSCSI サーバ」上のドライブなどに接続する  
 → 「**iSCSI connection 接続**」(P.40)

Remote Storage 機能を使用することにより、以下の実行が可能です。

- ・ サーバ OS 上でのリモート・ドライブ
- ・ サーバのリモート・ブート

また、前述の AVR 機能と組み合わせて使用することにより、コンソールからサーバ OS 上でのリモート・インストールの実行が可能です。

## ■ Local connection 接続

Local connection 接続は、以下の手順で実行します。

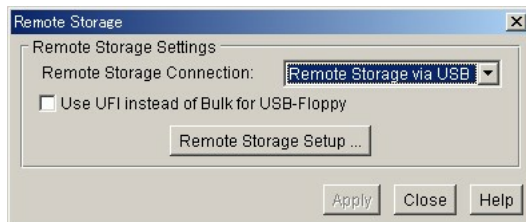
### POINT

- ▶ [Local connection] 接続は USB 経由で行いますが、PG-RSB102 をお使いの場合は、画面上で PCI 経由での接続を選択することもできます。手順 2 と手順 5 で USB か PCI かを選択する画面が表示されますので、PCI 経由で接続する場合は、「PCI」を選択してください。  
なお、PCI 経由で接続を行う場合には、以下に注意してください。
  - ・ PCI 経由の仮想 CD-ROM は未サポートです。
  - ・ PCI 経由の Remote Storage を認識させるにはサーバの再起動が必要です。
- ▶ USB 経由の Remote Storage での Boot は、BIOS が USB Legacy をサポートしている場合のみ可能です。  
BIOS セットアップユーティリティで「Multiboot」および「USB Legacy Support」を [Enabled] に設定してください。ただし、お使いの機種によっては、BIOS セットアップユーティリティにこれらの設定項目が存在しなかったり、自動で設定されることがあります。

手順 1 と手順 2 は PG-RSB102 のみの設定です。PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 を使用する場合は、手順 3 から行ってください。

### 1 [Remote Storage Setup] をクリックします。

以下の画面が表示されます。



### 2 サーバとリモートサービスボード間のインターフェースを設定します。

「Remote Storage Connection:」に [Remote Storage via USB] を設定してください。

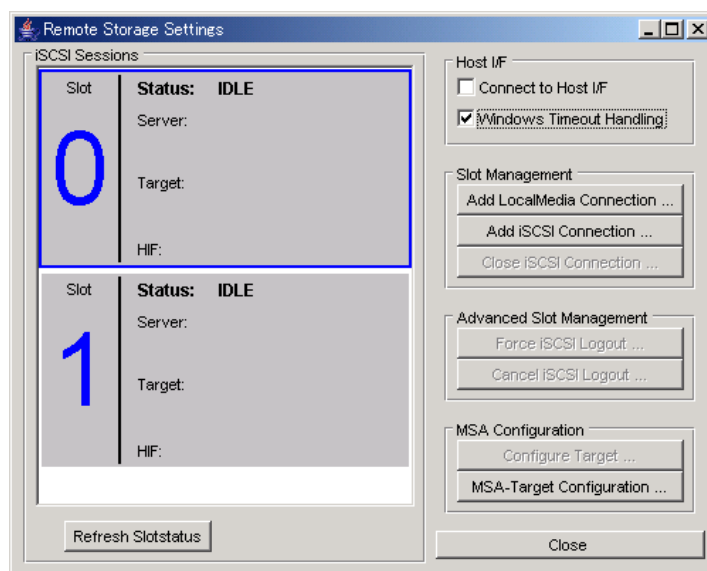
#### 重要

- ▶ 「Remote Storage Connection:」の設定に変更があった場合、リモートサービスボードはリセットを要求します。変更を有効にするためにはリモートサービスボードのリセットを行ってください。

オプションの有効 / 無効はリモートサービスボードとサーバの設定に依存します。

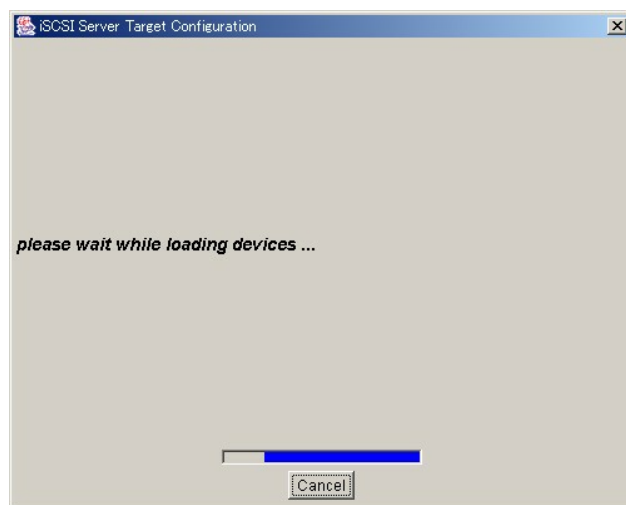
### 3 [Remote Storage Setup] をクリックします。

以下の画面が表示されます。



### 4 スロットを選択して [Add Local Media Connection] をクリックします。

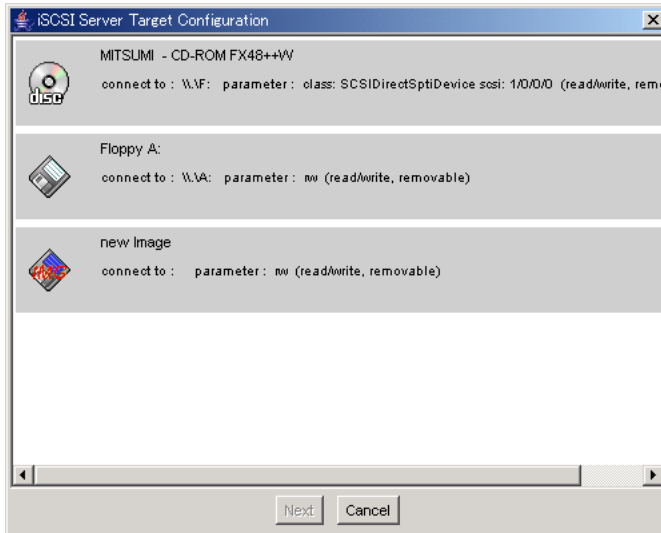
コンソール上のドライブの検索が始まります。



#### POINT

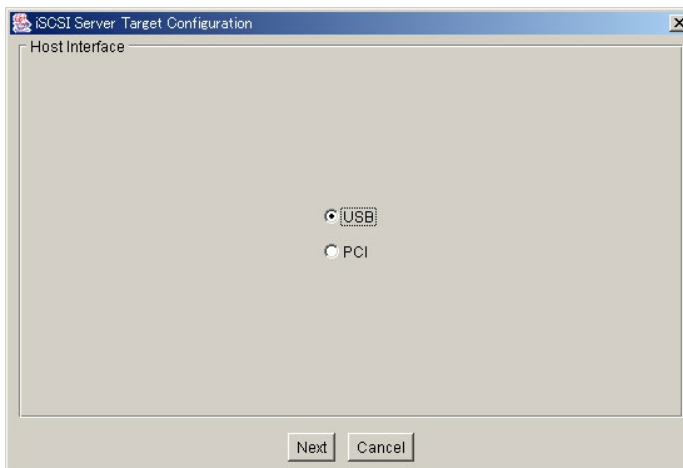
- ▶ 検索中に CD-ROM ドライブの検索を行うかどうかを問われる場合があります。  
RemoteStorageでCD-ROM ドライブを使用する場合は、[Yes]をクリックしてください。

- 5** 検索が完了すると以下のような画面が表示されるので、項目を選択し、**[Next]** をクリックします。



ここで表示されるデバイスは Web インターフェースを実行しているコンソールに依存します。コンソールに接続されているデバイスの中で Web インターフェースが認識可能なものだけが表示されます。以降は、選択したドライブによって設定手順が異なります。またコンソールのハードウェア環境によっても手順が異なる場合があります。以下の例を参考にして、設定を行ってください。

**例 :CD-ROM**

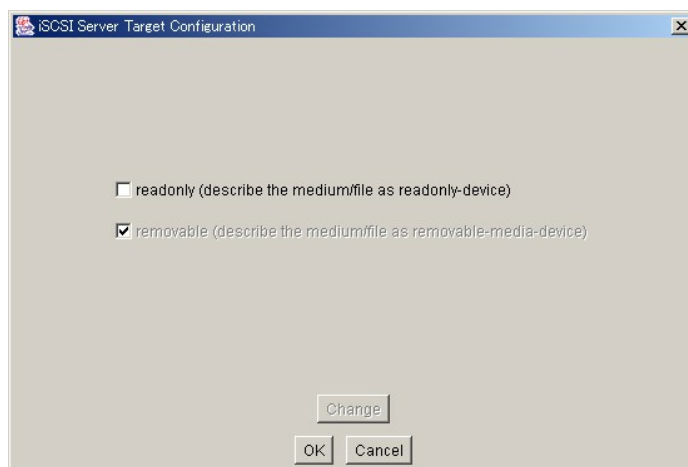


1. 接続インターフェースの選択画面が表示されます。USB を選択して **[Next]** をクリックします。

接続に成功すると以下の画面が表示されます。



2. **[OK]** をクリックします。

例：フロッピーディスク

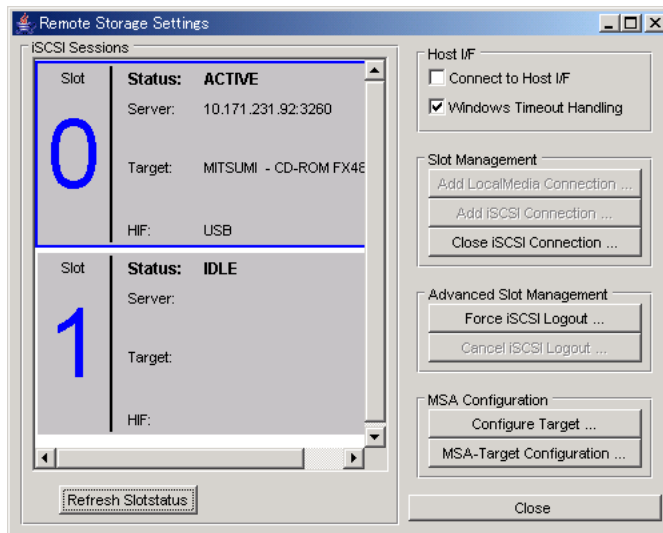
1. フロッピーディスクを「ReadOnly」で読み込む場合はチェックボックスにチェックを付けて [OK] をクリックします。

フロッピーディスクドライブにフロッピーがセットされていない場合、以下の警告画面が表示されます。



2. フロッピーディスクをドライブにセットし、[OK] をクリックします。
3. インターフェースの選択画面で USB を選択し、[Next] をクリックします。

- 6 手順4で選択したスロットに、デバイスの情報が格納されているのを確認します。



デバイスが設定されているスロットのステータスは [ACTIVE]、デバイスが設定されていないスロットは [IDLE] が表示されます。

[ACTIVE] が表示されているスロットを選択し、[Connect to Host I/F] チェックボックスにチェックを付けて、[Configure Target] をクリックします。

以上で [Local connection] 接続は完了です。

- 7 [Close] をクリックして Remote Storage Settings 画面を閉じます。

## ■ iSCSI connection 接続

iSCSI connection では、リモートサービスボードは iSCSI クライアントとして動作します。

iSCSI connection の実行にはリモートサービスボードが搭載されているサーバとは物理的に異なる「iSCSI サーバ」がネットワーク上に1台以上必要です。リモートサービスボードが iSCSI サーバと接続することで iSCSI connection を実行します。

サーバ OS に MSA (Management Server Application) をインストールすることによって、iSCSI サーバを構築することができます。MSA のインストール、設定については、「2.2 Management Server Application のインストールと設定」(→ P.17) を参照してください。

### POINT

- ▶ iSCSI サーバからリモートサービスボードの Web インターフェースを開くことはできません。
- ▶ 複数のリモートサービスボードから1台の iSCSI サーバに接続できます。

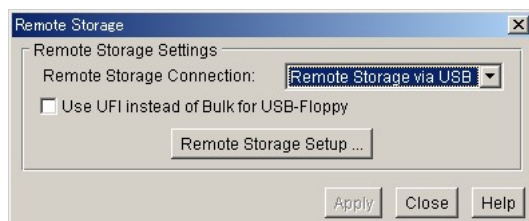


iSCSI connection 接続は、以下の手順で実行します。

手順 1 と手順 2 は PG-RSB102 のみの設定です。PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 を使用する場合は、手順 3 から行ってください。

## 1 [Remote Storage Setup] をクリックします。

以下の画面が表示されます。



## 2 サーバとリモートサービスボード間の通信インターフェースを設定します。

「Remote Storage Connection:」に「Remote Storage via USB」を設定してください。

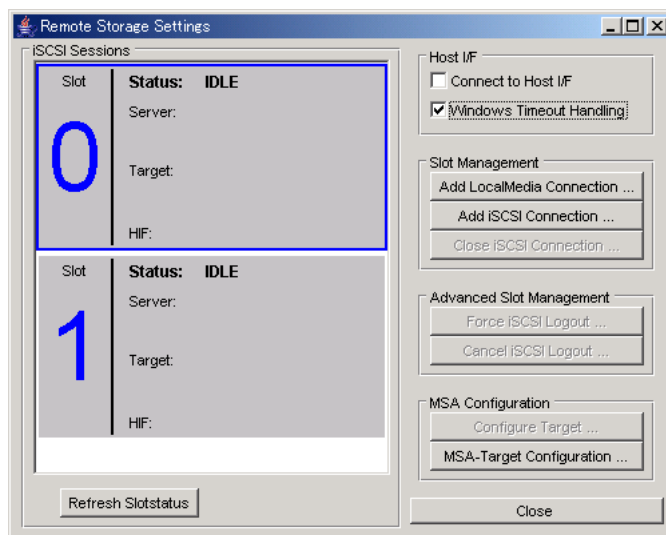


- ▶ 「Remote Storage Connection:」の設定に変更があった場合、リモートサービスボードはリセットを要求します。変更を有効にするにはリモートサービスボードをリセットしてください。

オプションの有効／無効は、リモートサービスボードとサーバ間の設定に依存します。

## 3 [Remote Storage Setup] をクリックします。

Remote Storage Settings 画面が表示されます。



- 4** [MSA- Target Configuration] をクリックします。  
以下の画面が表示されます。

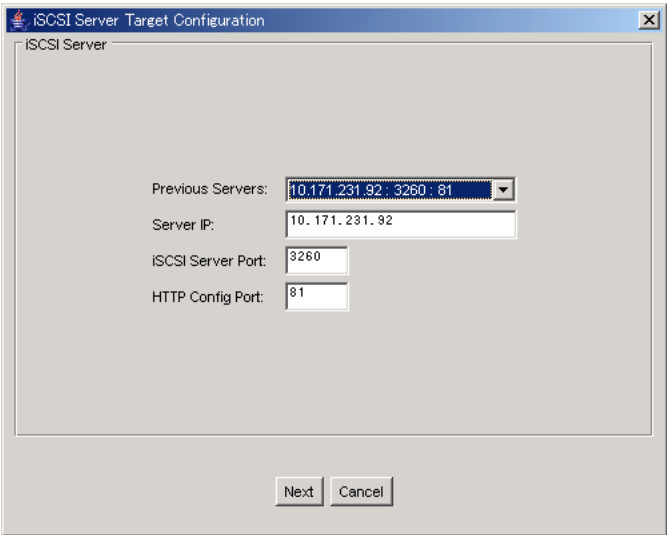
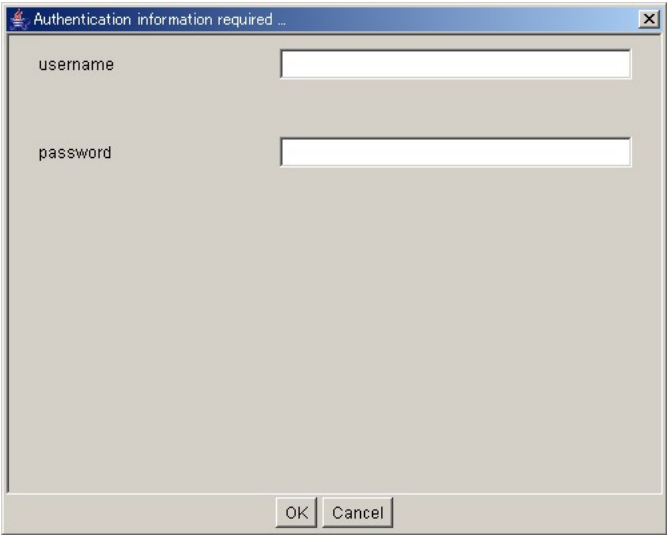
A screenshot of the 'iSCSI Server Target Configuration' window. It has a title bar with a close button. Inside, there's a section labeled 'iSCSI Server'. Below it, there are four fields: 'Previous Servers:' with a dropdown menu showing '10.171.231.92 : 3260 : 81', 'Server IP:' with a text box containing '10.171.231.92', 'iSCSI Server Port:' with a text box containing '3260', and 'HTTP Config Port:' with a text box containing '81'. At the bottom, there are 'Next' and 'Cancel' buttons.

表 : iSCSI Server の設定項目

項目	説明
Previous Servers	今までに接続したサーバの履歴から接続先を選択します。今まで接続が実行されていない場合は何も表示されません。
Server IP	MAS をインストールしたサーバの IP アドレスを入力します。
iSCSI Server Port	iSCSI サーバのポート番号を入力します。デフォルトの値は「3260」です。
HTTP Config Port	MAS の HTTP マネジメントポートのポート番号を入力します。デフォルトの値は「81」です。

- 5** 各項目を設定し、[Next] をクリックします。  
以下の画面が表示されます。

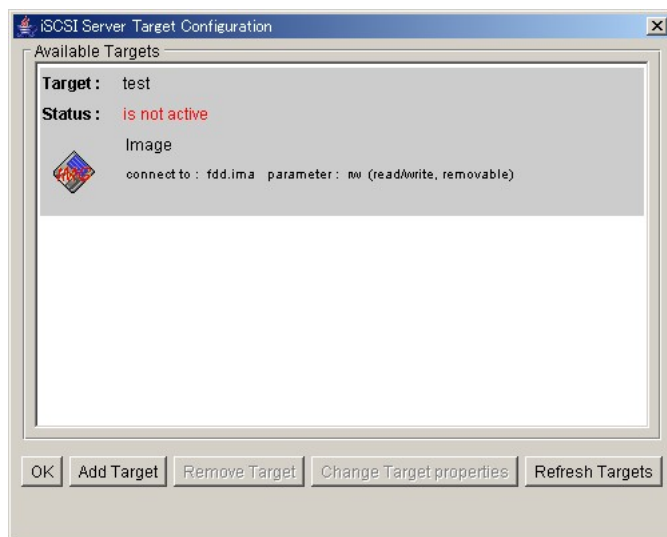
A screenshot of the 'Authentication information required' window. It has a title bar with a close button. Inside, there are two labels: 'username' and 'password', each followed by a text input field. At the bottom, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

## 6 ユーザ名とパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

### POINT

- ▶ ユーザ名、パスワードは MAS の設定で変更できます。

以下の画面が表示されます。



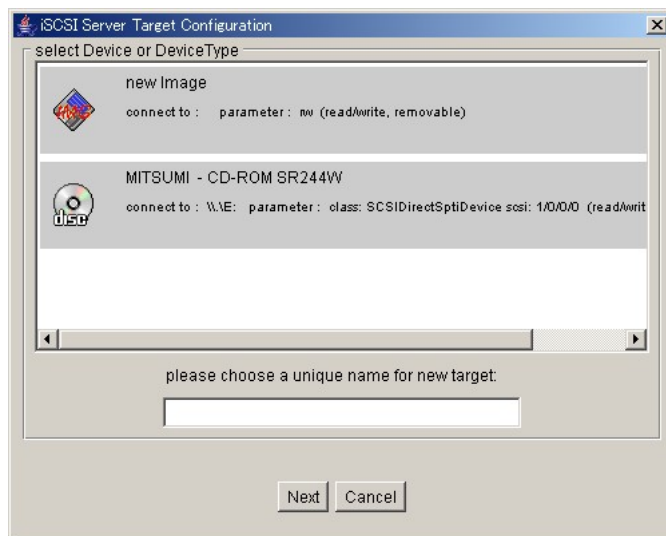
## 7 iSCSI ターゲットオブジェクトを作成します。

必要に応じて iSCSI ターゲットオブジェクトの削除や設定の変更も行えます。

### iSCSI ターゲットオブジェクトの作成

#### 1. [Add Target] をクリックします。

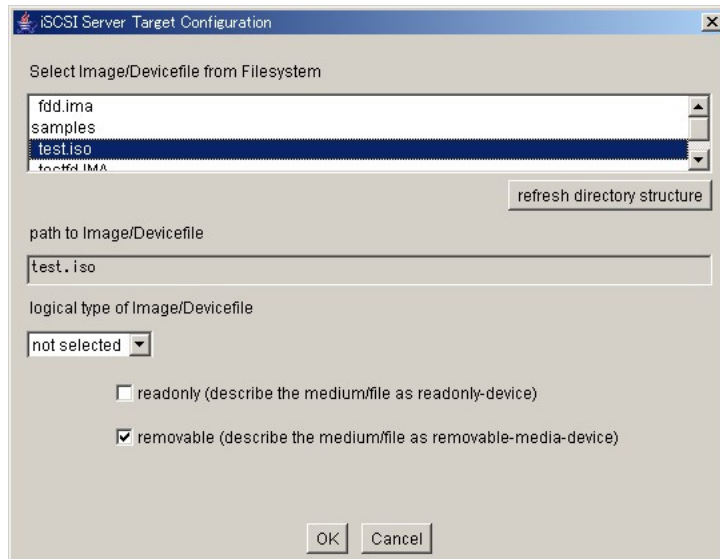
以下の画面が表示されます。



2. メディアタイプを選択し、テキストボックスにターゲットオブジェクト名を入力して [Next] をクリックします。

選択できるメディアタイプは iSCSI サーバのハードウェア構成に依存します。また、MAS の設定によって異なります。

[Next] をクリックするとイメージファイルを選択する画面が表示され、格納されているイメージファイルが表示されます。



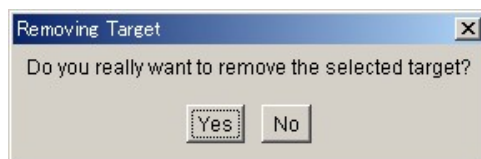
3. イメージファイルを選択し、「Logical type of image/devicefile」のリストからファイル形式を選択して [OK] をクリックします。

Remote Storage Settings 画面に戻ります。

#### iSCSI ターゲットオブジェクトの削除

1. 削除するターゲットオブジェクトを選択し、[Removing Target] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。



2. [Yes] をクリックします。  
ターゲットオブジェクトが削除されます。

#### iSCSI ターゲットオブジェクトの設定変更

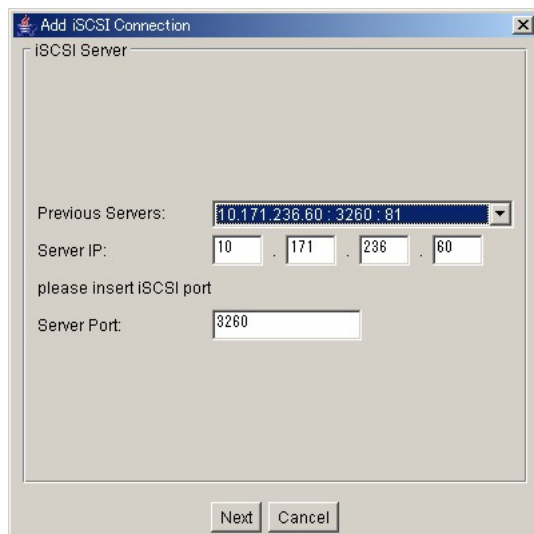
1. 設定を変更するターゲットオブジェクトを選択し、[Change Target properties] をクリックします。

イメージファイルを選択する画面が表示されます。

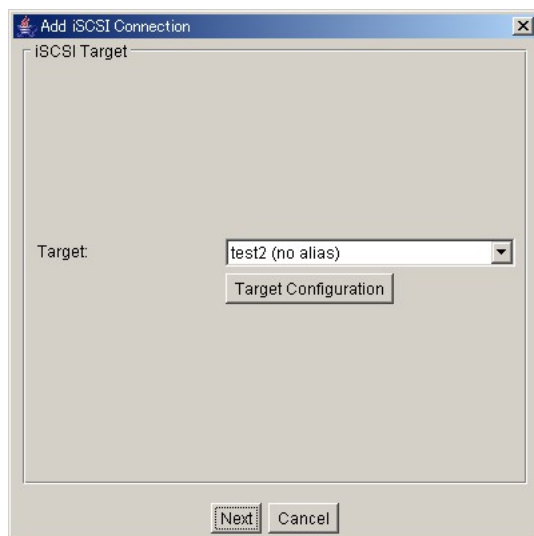
2. 必要に応じて設定を変更し、[OK] をクリックします。

**8** [Add iSCSI Connection] をクリックします。

iSCSI Server を選択する画面が表示されます。

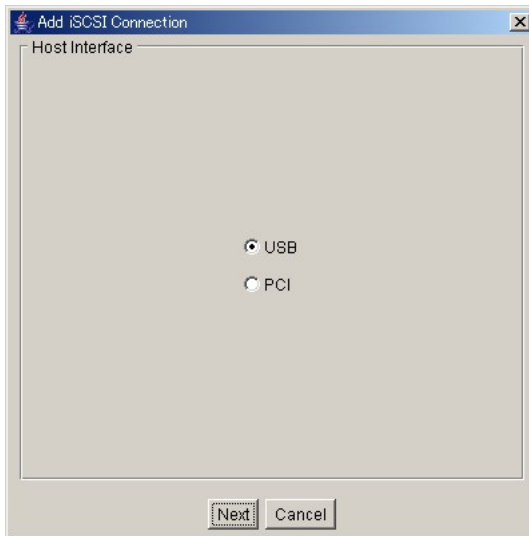
**9** 「Previous Server」に、手順 4 で設定した iSCSI Server を選択し、[Next] をクリックします。

ターゲットオブジェクトを選択する画面が表示されます。



**10** 手順7で作成したターゲットオブジェクトを選択し、[Next] をクリックします。

PG-RSB102 の場合は、接続インターフェースを選択する以下の画面が表示されます。  
PG-RSB103/PG-RSB104/PG-RSB105 の場合は表示されません。手順 11 の画面が表示されます。



**POINT**

- ▶ ここではUSB経由のiSCSI Connection接続について説明します。PCI経由で接続を行う場合は、「PCI」を選択してください。  
また、PCI経由で接続を行う場合は、以下に注意してください。
  - ・PCI経由の仮想CD-ROMは未サポートです。
  - ・PCI経由のRemote Storageを認識させるには、サーバの再起動が必要です。
- ▶ USB経由のRemote StorageでのBootは、BIOSがUSB Legacyをサポートしている場合のみ可能です。  
BIOS セットアップユーティリティで「Multiboot」および「USB Legacy Support」を[Enabled]に設定してください。ただし、お使いの機種によっては、BIOS セットアップユーティリティにこれらの設定項目が存在しなかったり、自動で設定されることがあります。

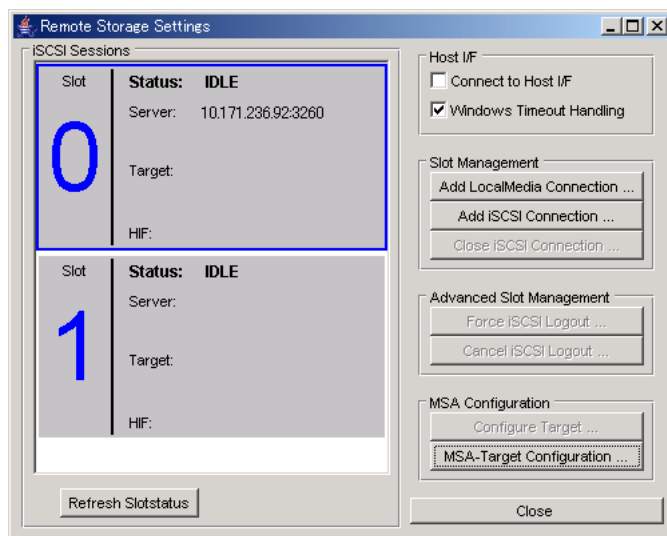
**11** 「USB」を選択し、[Next] をクリックします。

接続が行われ、接続に成功すると以下の画面が表示されます。



**12** [OK] をクリックすると Remote Storage Settings 画面に戻ります。

デバイスの情報が追加されていることを確認してください。



デバイスが設定されているスロットのステータスは「ACTIVE」、設定されていないスロットは「IDLE」が表示されます。

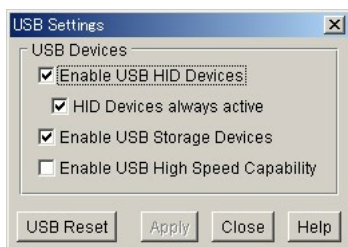
**13** 「ACTIVE」なスロットを選択し、「Connect to Host I/F」にチェックを付けて [Configure Target] をクリックします。

iSCSI connection 接続は完了です。

**14** [Close] をクリックして Remote Storage Settings 画面を閉じます。

## 4.1.5 USB settings

リモートサービスボードの USB 機能の設定を行います。



表：USB 機能の設定

項目	説明
Enable USB HID Devices	USB 経由のキーボード・マウスを有効にします。AVR を使用する場合には、必ずチェックボックスにチェックを付けてください。
HID Devices always active	サーバの BIOS が USB hot plug をサポートしていない場合には、チェックボックスにチェックを付けてください。

表：USB 機能の設定

項目	説明
Enable USB Storage Devices	USB 経由の RemoteStorage を有効にします。RemoteStorage を使用する場合にはチェックボックスにチェックを付けてください。
Enable USB Hige Speed Capability	USB 経由の RemoteStorage において、Hige Speed Storage を有効にします。

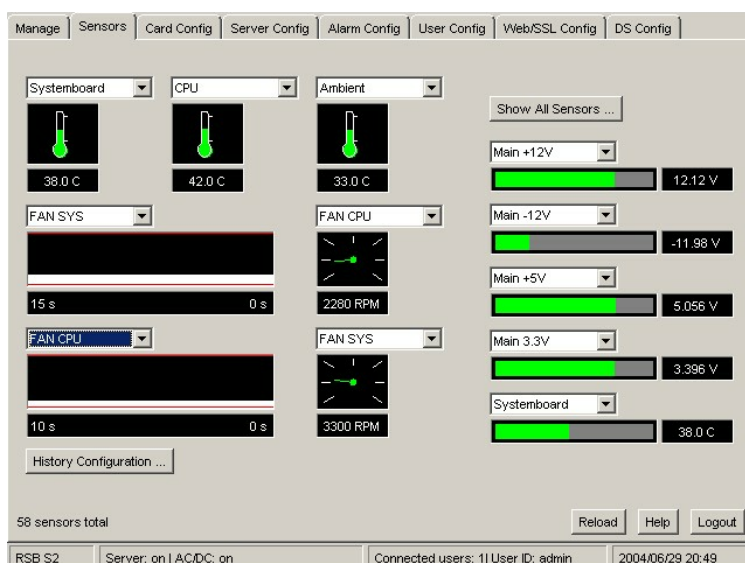
#### POINT

- ▶ 「Enable USB Hige Speed Capability」を有効にすると、USB のキーボード／マウスが使用できなくなる場合があります。その場合、当項目は無効にして使用してください。



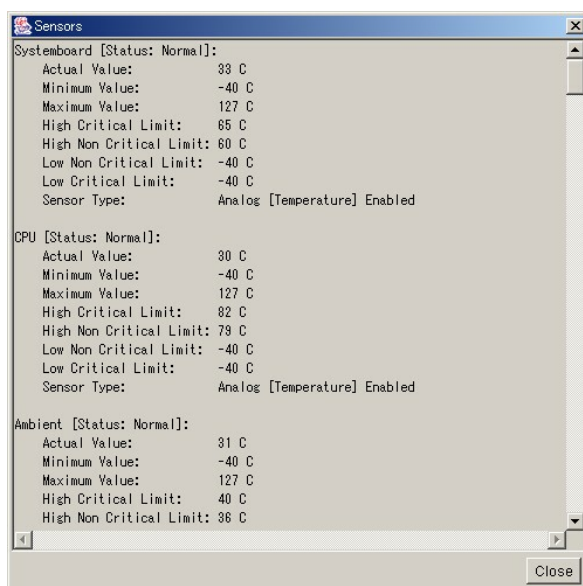
## 4.2 [Sensors] ページ

[Sensors] ページではサーバの各センサーの値を表示することができます。



### 4.2.1 Show All Sensors

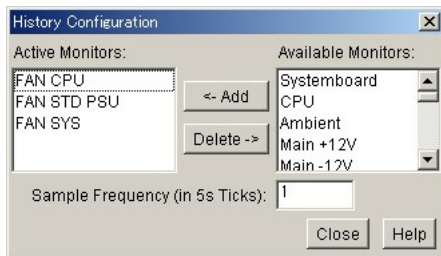
すべてのセンサーの値を表示させることができます。[Show All Sensors] をクリックすると、以下の画面が表示されます。



## 4.2.2 History Configuration

---

センサーの値を一定の間隔で表示させることができます。[History Configuration] をクリックすると、以下の画面が表示されます。



表示したいセンサーを「Available Monitors」から選択し、[<-Add] をクリックして、「Active Monitors」に追加します。

追加されたセンサーは、画面上部のプルダウンメニューから選択することができます。

## 4.2.3 Reload

---

[Reload] をクリックすると、すべてのセンサーの値を再度読み込みます。現在表示されているセンサーは、選択解除される場合があります。再度選択し、表示させてください。経過は画面左下に表示されます。

## 4.3 [Card Config] ページ

[Card Config] ページでは、リモートサービスボードの設定を行ったり、状態を確認することができます。

ManageSensorsCard ConfigServer ConfigAlarm ConfigUser ConfigWeb/SSL ConfigDS Config

Card Information

Product Number: S26361-F2425-E101  
Serial Number: 0030D30882E9  
Software Revision: RSB\_S2\_A.6.4.00.19  
Card Name: RSB\_S2  
SysContact: Please configure CONTACT  
Contact phone: Please configure CONTACT  
SysLocation: Please configure LOCATION

Firmware Update  
Update Firmware ...

Connector Status  
IPMB / I2C: connected  
ext. Power: connected

Network Configuration

LAN Cable: connected  
Ethernet Address: 00:30:d3:08:82:e9  
Network Settings ...

Alarm Notification  
SMTP/SNMP Settings ...  
Paging Severity Settings ...

I2C Configuration

☒ Automatic BMC detection  
RSB S2 I2C Address: 0x28  
BMC I2C Address: 0x24

RS 232 / Modem  
Baudrate: 115200  
Modem Init: ATL1M1X3E0S0=8

Reboot RSB S2Set ClockApplyCancelHelpLogout

RSB S2Server: on | AC/DC: onConnected users: 1 | User ID: admin2004/06/29 20:50

表 : Card Config ページの機能

項目	説明
Card Information	リモートサービスボードに関する情報です。
Product Number	リモートサービスボードのプロダクトナンバーが記載されています。
Serial Number	リモートサービスボードのシリアルナンバーが記載されています。
Software Revision	リモートサービスボードに適用されているファームウェアの版数です。
Card Name	リモートサービスボードの名前を設定することができます。
SysContact	緊急時の連絡先を設定します。
Contact Phone	緊急時の連絡先電話番号を設定します。
SysLocation	リモートサービスボードが搭載されているサーバの位置情報を設定します。
Network Configuration	リモートサービスボードのネットワークインターフェースを設定します。→「4.3.1 Network Settings」(P.52)
LAN Cable	LAN ケーブルの接続状態を表示します。
Ethernet Address	リモートサービスボードのネットワークインターフェースの MAC アドレスを表示します。
I2C Configuration	I2C についての設定を行います。
Automatic BMC detection	サーバの BMC との接続を自動的に行います。チェックボックスにチェックを付けてください。

表 : Card Config ページの機能

項目	説明
Firmware Update	リモートサービスボードのファームウェアをアップデートします。本項目は未サポートです。
Connection Status	リモートサービスボードの接続状態を表示します。
IPMB/I2C	IPMB/I2C との接続状態を表示します。
Ext.Power	リモートサービスボードの外部電源の接続状態を表示します。 外部電源の接続端子がない RSB では、本項目は表示されません。
Alarm Notification	[SMTP/SNMP Settings ...] をクリックすると、メールサーバや SNMP の設定が行えます。→「4.3.2 SMTP/SNMP Settings」(P.53) [Paging Severity Settings ...] をクリックすると、各グループごとの Severity を設定できます。→「4.3.3 Paging Severity Setting」(P.53)
RS 232/Modem	シリアルポートやモデムとの接続を設定します。本項目は未サポートです。

## 4.3.1 Network Settings

リモートサービスボードの IP アドレス、DNS の設定を行います。[Network Settings] をクリックすると、以下の画面が表示されます。

**Network Settings**

**Ethernet**

Card Name: RSBS2-LP

IP Address: 10 . 171 . 236 . 221

Netmask: 255 . 255 . 255 . 0

Gateway IP: 10 . 171 . 236 . 1

DHCP Server: 10 . 171 . 134 . 25

LAN Mode: Auto Negotiation

☒ Use DHCP

**DHCP Hostname Configuration**

☒ Register DHCP Address in DNS

☒ Use Cardname instead of Hostname

☒ Add Card Serialnumber

☐ Add Extension

Extension: -RSB

DNS Name: RSBS2-LP-0030D309CB44

**DNS Settings**

☒ DNS enabled

☒ Obtain DNS configuration from DHCP

DNS Domain: fujitsu.co.jp

DNS Server 1: 10 . 171 . 133 . 2

DNS Server 2: 10 . 0 . 8 . 3

DNS Server 3: 10 . 23 . 4 . 3

Apply Cancel Close Help

## 4.3.2 SMTP/SNMP Settings

Network Settings で DNS の設定を行った場合、メールサーバや SNMP トラップ送信先にサーバ名を指定できます。ただし、DNS の設定が間違っている場合、IP 指定の項目も無効になります。[SMTP/SNMP Settings] をクリックすると、以下の画面が表示されます。

- SMTP Server IP

リモートサービスボードはここで設定した SMTP サーバにメールを送信します。メールの送信先など、詳しい設定は [Alarm Config] ページで行ってください。

- SNMP Trap Destinations

リモートサービスボードから通知する、SNMP トラップの送信先 IP アドレスを設定することができます。

## 4.3.3 Paging Severity Setting

各グループの SEL 書き込みに対する E-mail を発生させる値 (Severity) を設定することができます。[Paging Severity Settings] をクリックすると、以下の画面が表示されます。

それぞれのグループは設定された Severity に達すると E-mail を発生させます。各 Severity の設定は以下のようになります。

表：Severity の設定

項目	説明
None	SEL に対する E-mail は発生しません。
Critical	Critical 以上のイベントで、SEL に対する E-mail が発生します。
Warning	Warning 以上のイベントで、SEL に対する E-mail が発生します。
All	すべての Severity の SEL に対する E-mail が発生します。

### 4.3.4 Reboot RSB S2

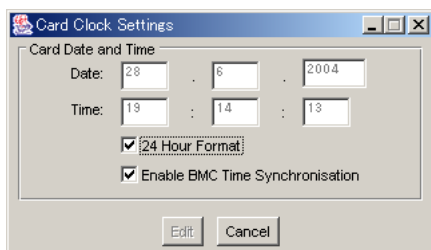
[Reboot RSB S2] をクリックすると、リモートサービスボードをリブートします。

リブートを実行するとログインしているユーザはすべて切断され、一時的にリモートサービスボードとの接続が不可となります。リブート後は通常のログイン画面になるまで Web インターフェースの操作を行わないでください。

### 4.3.5 Set Clock

リモートサービスボードに内蔵されている時計を設定することができます。

通常、この設定を変更する必要はありません。[Set Clock] をクリックすると、以下の画面が表示されます。



#### POINT

- ▶ リモートサービスボードの内蔵時計は、常にベースボード上の BMC と呼ばれるモジュールと時刻の同期を行っています。  
「Enable BMC Time Synchronisation」のチェックボックスのチェックを外すと、リモートサービスボードは BMC との同期を行わず、自身の内蔵時計のみで動作し始めます。この場合、[Edit] ボタンが有効になり、リモートサービスボードの内蔵時計の時刻を設定することができます。

## 4.4 [Server Config] ページ

サーバ本体の各情報を取得、表示します。

The screenshot shows the 'Server Config' page with the following sections:

- Cabinet/Product Information:**
  - ServerName: TX150S2-W2K
  - Cabinet Model: PRIMERGY TX150 S2
  - Serial: YBMJU005824
  - Product Nr.: ABN:K934-V12
  - Version: GS01
  - Manufacturer: FSC
- System Board Information:**
  - Model: D1751
  - Serial: G430323-B03-00030
  - Part Nr.: S26361-D1751-A10
  - Version: WGS10 GS1
  - Manufacturer: FSC
  - BIOS Version: 08.09.019.1751
- O/S and ServerView Agent Information:**
  - Agent Version: 3.03.06
  - Operating System: Windows 2000
  - O/S and Vendor: Microsoft
  - LAN Adapter: Intel(R) PRO/1000 CT Network Connec
  - IP Address: 10.171.236.69
  - Netmask: 255.255.255.0
  - MAC Address: 00:0E:A6:9D:8E:DD ☐ DHCP enabled
  - Default Gateway: 10.171.236.1
- Other Information:**
  - Keyboard: US
  - Codepage: 437
  - TimeZone: GMT +1

Buttons at the bottom: Apply, Cancel, Help, Logout.

Status bar at the bottom: RSB S2 | Server: on | AC/DC: on | Connected users: 1 | User ID: admin | 2004/06/29 20:50

表 : Server Config ページの機能

項目	説明
Cabinet/Product Information	キャビネット / プロダクトの情報を表示します。
Server Name	サーバ名を表示します。
Model	モデル名を表示します。
Serial	シリアル No を表示します。
Product Nr	プロダクト No を表示します。
Version	バージョン情報を表示します。
Manufacturer	製造社名を表示します。
System Board Information	ベースボードの情報を表示します。
Model	モデル名を表示します。
Serial	シリアル No を表示します。
Part Nr	Part No を表示します。
Version	バージョン情報を表示します。
Manufacturer	製造社名を表示します。
BIOS Version	BIOS のバージョンを表示します。

表 : Server Config ページの機能

項目	説明
O/S and ServerView Agent Information	OS、および ServerView エージェントの情報を表示します。
Agent Version	エージェントのバージョンを表示します。
Operating System	OS 名を表示します。
O/S and Vendor	OS 製造社名を表示します。
LAN Adapter	サーバに搭載されている LAN アダプタ名を表示します。 LAN アダプタが複数存在する場合は、プルダウンメニューでアダプタを切り替えることによってそれぞれの情報を参照することができます。
IP Address	IP アドレスを表示します。
Netmask	サブネットマスクの IP を表示します。
Gateway	ゲートウェイの IP を表示します。
MAC Address	MAC アドレスを表示します。
DHCP enabled	DHCP の有効 / 無効を表示します。
Other Information	キーボードやタイムゾーンの設定をします。
Keyboard	使用するキーボードの言語設定をします。
Codepage	サーバで使用するコードページを設定します。
TimeZone	タイムゾーンの設定をします。



# 4.5 [Alarm Config] ページ

アラーム機能の設定を行います。

ManageSensorsCard ConfigServer ConfigAlarm ConfigUser ConfigWeb/SSL ConfigDS Config

Global Email Paging Configuration

Mail Format:Standard

SMTP Server:1921680111

SMTP Retries:3

SMTP Retry Delay[sec]:30

To:xxxxx@xx.xx.xxxxx.co.jp

☐ Enable Email Paging

Mail Format dependent Configuration

From:xxxxxx@xx.xx.xxxxx.co.jp

Subject:MailSubject

Message:MailMessage

Admin.Name:MailUserInfo\_0

Admin.Phone:MailUserInfo\_1

REMCS Id:00PMRGYTX150S2PGT15217S###0EST001A00001#

Server URL:http://www.my-server.com

ApplyCancelHelpLogout

RSB S2

Server: on | AC/DC: on

Connected users: 1 | User ID: admin

2004/06/29 20:34

表 : Alarm Config ページの設定項目

項目	説明
Global Email Paging Configuration	各メール項目を設定します。
Mail Format	メール送信に使用するメール形式を設定します。以下の形式があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Standard (デフォルト)</li><li>• ITS-Format</li><li>• Fujitsu REMCS Format</li></ul>
SMTP Server	SMTP サーバの IP を設定します。デフォルト値は「0.0.0.0」です。
SMTP Retries	SMTP 送信のリトライ回数を設定します。デフォルト値は「3」です。
SMTP Retry Delay[sec]	SMTP 送信のリトライ間隔時間を秒で設定します。デフォルト値は「30」です。
To	送信先メールアドレスを設定します。
Enable Email Paging	電子メール通知を有効／無効化します。有効に設定するときは、チェックボックスにチェックを付けます。

表 : Alarm Config ページの設定項目

項目	説明
Mail Format dependend Configuration	メール形式の各項目を設定します。 設定できる項目はメールの形式に依存します。
From	送信元メールアドレスを設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」のときは設定できません。
Subject	メールの件名を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
Message	メールのメッセージを設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
Admin.Name	管理者名を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
Admin.Phone	管理者の電話番号を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
REMCS Id	装置 ID を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「ITS-Format」のときは設定できません。
Server URL	サーバの URL を設定します。「Mail Format」の設定が「ITS-Format」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。

# 4.6 [User Config] ページ

ユーザアカウントに関する設定を行います。

ManageSensorsCard ConfigServer ConfigAlarm ConfigUser ConfigWeb/SSL ConfigDS Config

User Administration

User ID:adminNew User ...Delete

Group:ADMINISTRATOR

Description:Default Administrator

Dialback Number:1-800-DIAL-ADMIN

☐ Enable Paging

Paging Settings ...Change PasswordAutologon Settings

Currently Connected Users

User ID:Description:

adminDefault Administrator

ApplyCancelHelpLogout

RSB S2Server: on | AC/DC: onConnected users: 1 | User ID: admin2004/06/29 20:51

表 : User Config ページの機能

項目	説明
User ID	コンボボックス内のユーザアカウントを選択することにより、以降の項目にユーザアカウントの情報が表示されます。
[New User ...]	新規ユーザを作成します。→「4.6.1 New User」(P.60)
[Delete]	「User ID」に表示されているユーザアカウントを削除します。確認のメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。
Group	「User ID」で選択されているユーザアカウントが属するグループ名が表示されます。また、現在設定されているグループ名から他のグループ名へ変更することも可能です。以下のグループがあります。 「ADMINISTRATOR」、「CALLBACK」、「NO_ACCESS」、「OEM」、 「OPARATOR」、「USER」
Description	「User ID」で選択されているユーザアカウントの詳細情報が表示されます。また、現在設定されている内容を変更することも可能です。
Dialback Number	「User ID」で選択されているユーザアカウントの電話番号が表示されます。また、現在設定されている内容を変更することも可能です。
Enable Paging	チェックを付けると、「User ID」で選択されているユーザアカウントによるメール通知を行うことができます。
[Paging Settings ...]	メール通知に関する設定を行います。「Enable Paging」にチェックを付けている場合のみ有効になります。→「4.6.2 Paging Settings」(P.61)

表 : User Config ページの機能

項目	説明
[Change Password]	「User ID」で選択されているユーザアカウントのパスワードを変更します。 [Change Password] をクリックすると、パスワードを設定する画面が表示されるので、パスワードを入力して [OK] をクリックします。
[Autologon Settings]	「User ID」で選択されているユーザアカウントの自動ログオンを有効にする設定をします。→「4.6.3 Autologon Settings」(P.61)
Currently Connected Users	リモートサービスボードにログイン中のログインユーザ情報を表示します。 ・ User ID : ユーザアカウント ・ Description : 詳細情報

### 4.6.1 New User

[New User] をクリックすると、以下の画面が表示されます。各項目を設定し、新規にユーザアカウントを作成します。

表 : 新規ユーザアカウント設定項目

項目	説明
User ID	ユーザアカウント名を設定します。
Group	ユーザアカウントが属するグループ名を設定します。 「ADMINISTRATOR」、「CALLBACK」、「NO_ACCESS」、 「OEM」、「OPARATOR」、「USER」のいずれかを選択します。
Description	ユーザアカウントの詳細情報を設定します。
Dialback Number	ユーザアカウントの電話番号を設定します。
Password	ユーザアカウントのパスワードを設定します。
Confirm Password	上記パスワードを再入力します。

### 4.6.2 Paging Settings

[Paging Settings ...] をクリックすると、以下の画面が表示されます。指定されたイベントが発生すると電子メールによる通知を受けることができます。

メール通知を有効にするためには、以下の設定が必要です。

表：メール通知の設定項目

項目	説明
Enable Email Paging	チェックを付け、有効にします。
Email Address	ユーザの電子メールアドレスを設定します。

POINT

- ▶ 「SMTP Server」には、SMTP サーバの IP アドレスが表示されます。  
[Card Config] ページの [SMTP/SNMP Settings] で設定した値が表示されます。
- ▶ [Test Paging] をクリックすると、テストメール送信を行うことができます。

### 4.6.3 Autologon Settings

[Autologon Settings] をクリックすると以下の画面が表示され、「User ID」で選択されているユーザアカウントに対し、自動ログオンを有効にする設定を行うことができます。

自動ログオンを有効にするには、以下の設定が必要です。自動ログオン中にリモートサービスボードがユーザ証明書のどのフィールドを使用するのか定義します。

以下の項目の右側の入力ボックスに対象値を入力すると、その項目が選択されます。

英数半角大文字で「NONE（数字項目は「0」）」を入力した場合は、選択が解除されます。

- Issuer Name
- Subject Name
- Certificate Serial Number
- Not After Date
- Not Before Date
- Number of bits used for the public key creation
- Certificate Version

### 重要

- ▶ 以下の項目は、必ず2つ以上選択してください。

- Issuer Name
- Certificate Serial Number
- Subject Name

### POINT

#### **「Pool Account」チェックボックス**

- ▶ 「Pool Account」チェックボックスにチェックを付けると、表示されているアカウントを複数のユーザが使用できるようになります。

## 4.7 [Web/SSL Config] ページ

[Web/SSL Config] ページには、以下の機能があります。

The screenshot shows the 'Web/SSL Config' page with the following sections:

- Setup:**
  - ☒ Standard Web Access: HTTP Port 80
  - ☒ Secured Web Access (SSL): HTTPS Port 443
  - ☒ Telnet Access: Telnet Port 3172
  - ☐ Auto log-on
  - Symmetric Encryption Strength (bit): 128
- Notification:**
  - ☐ Notification on Certificate Expiration
  - 30 days to notify before expiration
- Server Certificate:**
  - View ...
  - Request Generation ...
  - Request Status ...
  - Upload ...
- Certificate Authority Certificate:**
  - View ...
  - Upload ...
  - ☐ Enforce Client Certificate

Buttons at the bottom: Apply, Cancel, Help, Logout.

Status bar: RSB S2, Server: on | A.C./D.C: on, Connected users: 1 | User ID: admin, 2004/06/29 20:51

表 : Web/SSL Config ページの機能

項目	説明
Setup	リモートサービスボードにアクセスするための HTTP や Telnet のポート番号を設定します。
Standard Web Access	HTTP アクセスの有効／無効の設定です。チェックを付けると、リモートサービスボードへの HTTP アクセスが可能になります。
HTTP Port	HTTP で使用するポート番号を設定します。初期値は「80」です。
Secured Web Access (SSL)	HTTPS (SSL) アクセスを有効／無効の設定です。チェックを付けると、リモートサービスボードへの HTTPS (SSL) アクセスが可能になります。
HTTPS Port	HTTPS で使用するポート番号を設定します。初期値は「443」です。
Telnet Access	Telnet アクセスの有効／無効の設定です。リモートサービスボード (PG-RSB102) では本機能は未サポートです。
Telnet Port	Telnet で使用するポート番号を設定します。初期値は「3172」です。
Auto log-on	自動ログオンの有効／無効の設定です。チェックを付けると、リモートサービスボードへの自動ログオンが可能になります。Certificate Authority Certificate の「Enforce Client Certificate」がチェックされている場合のみ、設定可能です。
Symmetric Encryption Stlength (bit)	暗号化の強度を設定します。「40」または「128」のどちらかを選択してください。初期値は「128」が設定されています。

表 : Web/SSL Config ページの機能

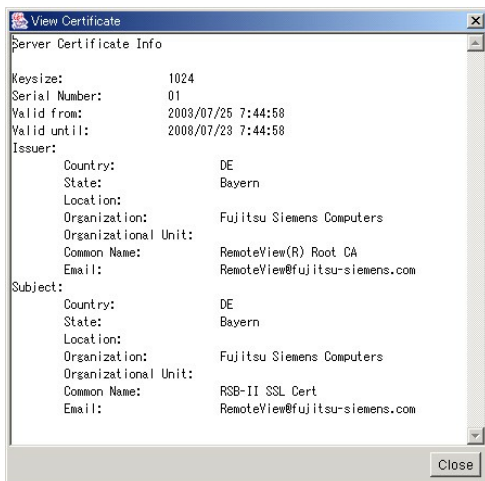
項目	説明
Notification	証明書の期限が切れた際に、ユーザーに対して通知を行うかどうかを設定します。
Notification on Certificate Expiration	証明書期限切れ通知の有効／無効の設定です。チェックを付けると、ログインユーザに対して証明書の期限切れ通知を行います。
days to notify before expiration	証明書の有効期限を設定します。初期値は「30」です。
Server Certificate	サーバ証明書の管理を行います。詳細は「4.7.1 Server Certificate」(→ P.64) を参照してください。
[View ...]	次のリモートサービスボードのリポート時に使用されるサーバ証明書の情報画面が表示されます。
[Request Generation ...]	新規にサーバ証明書の作成を行います。
[Request Status ...]	サーバ証明書の要求に対する状態を表示します。
[Upload ...]	サーバ証明書の更新を行います。
Certificate Authority Certificate	CA 証明書の管理を行います。詳細は「4.7.2 Certificate Authority Certificate」(→ P.66) を参照してください。
[View ...]	次のリモートサービスボードのリポート時に使用される CA 証明書の情報を表示します。
[Upload ...]	CA 証明書の更新を行います。
Enforce Client Certificate	チェックを付けると、Web ブラウザにインストールされたクライアント証明書を持つユーザに対して、リモートサービスボードへの SSL 接続を許可します。

## 4.7.1 Server Certificate

ここではサーバ証明書の管理を行います。

### ■ View

[View] をクリックすると、次のリモートサービスボードのリポート時に使用されるサーバ証明書の情報が表示されます。





## ■ Request Generation

新規にサーバ証明書の作成を行います。

[Request Generation] をクリックすると、「Request Generation」画面が表示されます。

各項目を設定し [Start CSR Genetation] をクリックしてください。

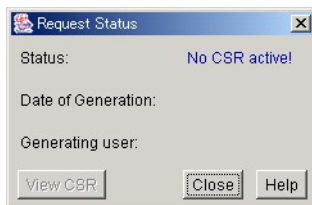


The 'Request Generation' dialog box contains the following fields and controls:

- Keysize: 512 (dropdown menu)
- Country: (text input)
- State/Province: (text input)
- Location: (text input)
- Organization: (text input)
- Organizational Unit: (text input)
- Common Name: (text input)
- Email Address: (text input)
- Buttons: Start CSR Generation, Close, Help

## ■ Request Status

[Request Status] をクリックすると、サーバ証明書要求に対しての現在の状態が表示されます。

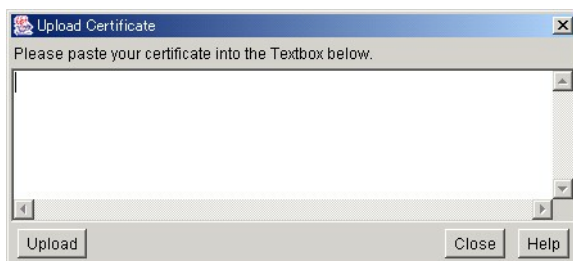


The 'Request Status' dialog box displays the following information:

- Status: No CSR active!
- Date of Generation:
- Generating user:
- Buttons: View CSR, Close, Help

## ■ Upload

[Upload] をクリックすると、サーバ証明書の更新を行います。



The 'Upload Certificate' dialog box contains the following elements:

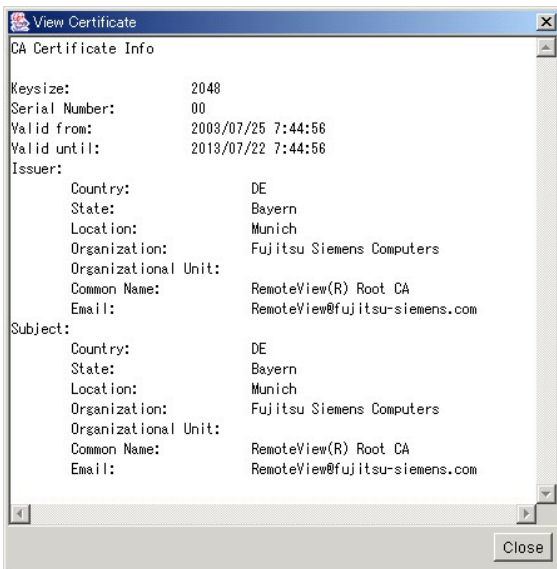
- Text: Please paste your certificate into the Textbox below.
- Textbox: A large empty text area for pasting the certificate.
- Buttons: Upload, Close, Help

## 4.7.2 Certificate Authority Certificate

ここではCA 証明書の管理を行います。

### ■ View

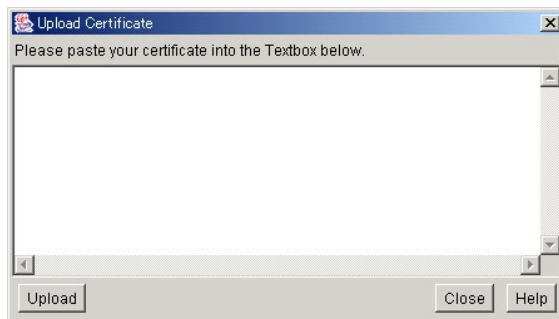
[View] をクリックすると、次のリモートサービスボードのリポート時に使用される CA 証明書の情報が表示されます。



### ■ Upload

[Upload] をクリックすると、CA 証明書の更新を行います。更新処理は、以下の手順で行ってください。

- 1 「Upload Certificate」画面のテキストボックスの中に、CA より送られた証明書をコピーして貼り付けます。



- 2 画面下の [Upload] をクリックします。

リモートサービスボードのリポート後に更新された証明書が有効になります。

## ■ Enforce Client Certificate

チェックを付けると、Web ブラウザにインストールされたクライアント証明書を持つユーザーに対して、リモートサービスボードへの SSL 接続を許可します。

### 重要

- ▶ 「Enforce Client Certificate」チェックボックスが有効でクライアント証明書を持っていない場合、リモートサービスボードへのログインができなくなります。このような場合、サーバブート処理中にリモートサービスボードメニュー（【F3】キー押下）にアクセスし、設定を変更してください。

## 4.8 [DS Config] ページ

[DS Config] ページには、以下の機能があります。

ディレクトリサービス（DS 機能）コンポーネントは、既存のディレクトリサービスのデータベースで、リモートサービスボードにアクセスしているユーザの管理を行うことができます。ユーザがリモートサービスボードにログインしようとしている場合に、リモートサービスボードは、内部のデータベースに該当するユーザが含まれているかのチェックを行います。データベースに該当ユーザが含まれていない場合に、DS 機能が有効になっていると、リモートサービスボードはユーザの所在を既存のアクセスコントロールサーバに問い合わせます。以下のようなユーザがリモートサービスボードにログインすることができます。

- ・ リモートサービスボードの内部データベースで管理されているユーザ
- ・ ディレクトリサービスのデータベースに登録されているグループに含まれるユーザ

The screenshot shows the [DS Config] page with the following sections:

**Directory Service (DS) Authentication Properties**

- ☐ Enable Directory Service connectivity
- Access Control Servers: 0.0.0.0:0
- DS Group Name: RMCALL

**History of User Login's since last card reset**

User ID	Login Time	Login Name
0x3	2004/06/24 21:39:00	admin
0x3	2004/06/25 10:08:12	admin
0x3	2004/06/25 10:55:12	admin
0x3	2004/06/25 11:06:17	admin
FAILED	2004/06/25 11:32:11	admin
FAILED	2004/06/25 11:32:19	admin
0x3	2004/06/25 11:59:41	admin
0x3	2004/06/25 12:12:07	admin
0x3	2004/06/25 13:27:55	admin

Buttons: Apply, Cancel, Help, Logout

Footer: RSB S2 | Server: on | AC/DC: on | Connected users: 1 | User ID: admin | 2004/06/29 20:52

表 : DS Config ページの機能

項目	説明
Directory Service (DS) Authentication Properties	ディレクトリサービスの認証設定を行います。
Enable Service Directory connectivity	チェックを付けると、接続を許可するサーバ、およびグループを設定できます。
Access Control Servers	<p>アクセスコントロールサーバの IP アドレス、またはサーバ名、およびリモートサービスボードの ACS ソフトウェアが応答するポート番号を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定例 192.168.1.1:7777 server.yourcompany.com:8888</li> </ul> <p>また、以下のように複数指定も可能です。 192.168.1.1:7777, server.yourcompany.com:8888</p>
DS Group Name	ディレクトリサービスグループが属するディレクトリサービスグループ名を設定します。
History of User Login's since last card reset	<p>ログインユーザの履歴が表示されます。 リモートサービスボードがリブートすると、この履歴はクリアされます。 以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ ID</li> <li>ログイン時間</li> <li>ログイン名</li> </ul>



# 索引

## い

インストール	
MSA	17

## て

ディレクトリサービス機能	
アカウントの設定	20
パスワードの暗号化	19
「DS Config」ページの設定	20

## り

リモートサービスボード	10
アラーム機能の設定	57
各センサー値の表示	49
画面表示設定	28
機能	10
サーバ情報の表示	55
サーバ証明書の設定	63
自動ログオン設定	61
ディレクトリサービス機能	19, 68
電源の操作	28
ファームウェア版数	11
ユーザアカウントの設定	59
リモートサービスボードの設定	51
留意事項	12
Management Server Application (MSA)	17
USB の設定	47

## A

Advanced Video Redirection (AVR)	29
AVR Manual Configuration	33

## M

MSA	
インストール	17
起動	18
設定	18
必要な環境	17

## R

Remote Storage 機能	35
iSCSI connection 接続	40
Local connection 接続	36

## V

View ASR Screenshot	34
---------------------	----

## W

Web インターフェース	
起動	22
終了	25

---

リモートサービスボード

ユーザーズガイド  
B7FH-4991-01 Z0-00

発行日 2007 年 4 月  
発行責任 富士通株式会社

---

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。